

人権・男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和2年3月

明石市

目 次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 回収状況	1
5. 報告書を見る際の注意事項	1
6. 回答者の属性	2
II 調査結果	3
1. あなたの人権意識について	3
2. ご自身の考え方・行動、体験について	14
3. 男女共同参画に関する考えについて	27
4. DV（配偶者等からの暴力）について	36
5. 自由記述	47
III 資料 調査票	48

I 調査概要

1. 調査の目的

「明石市人権施策推進方針」及び「あかし男女共同参画プラン」に基づいた取組についての検証を行うとともに、市民の人権・男女共同参画に関わる課題等に対する意識を把握し、今後の人権尊重のまちづくり、また、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりへ向けた取り組みをますます充実・発展させていくための基礎資料とします。

2. 調査項目

- (1) あなたの人権意識について
- (2) ご自身の考え方・行動、体験について
- (3) 男女共同参画に関する考えについて
- (4) DV（配偶者等からの暴力）について

3. 調査の設計

- ・調査対象：住民基本台帳から無作為に抽出した 18 歳以上の市民 3,000 人
- ・調査方法：無作為抽出による郵送配布・郵送回収
- ・調査期間：令和 2 年 2 月 6 日～令和 2 年 2 月 20 日

4. 回収状況

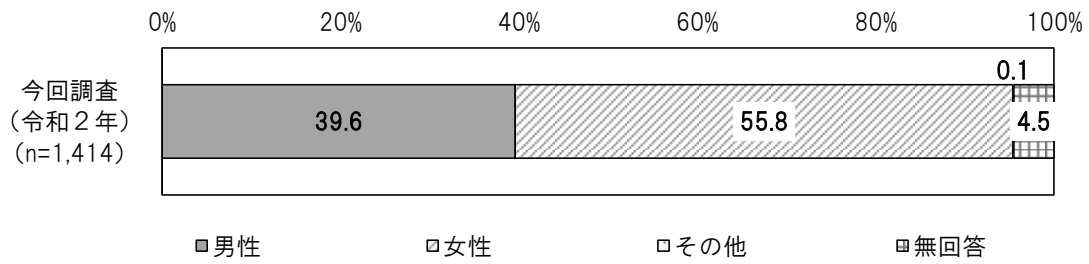
対象者数	有効回収数	有効回収率
3,000 人	1,414 人	47.1%

5. 報告書を見る際の注意事項

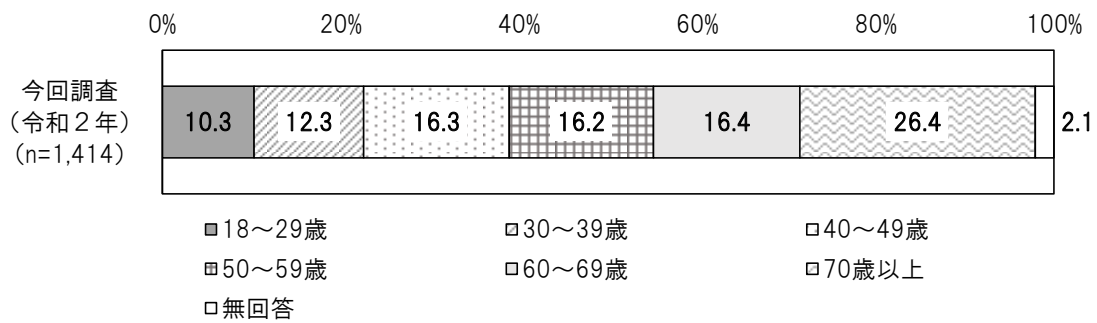
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。
- 百分率は小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、内訳の合計が 100%にならない場合があります。
- 1 つの質問に 2 つ以上回答できる複数回答可能な場合は、回答比率の合計が 100%にならない場合があります。
- 調査結果を図表にて表示していますが、表については、最も高い割合の欄を で網かけをしています。（無回答を除く）
- サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛しています。
- 前回調査とは、平成 27 年 11 月に行った「明石市人権に関するアンケート調査」のことです。
- 全国調査とは、内閣府が平成 29 年 10 月に行った「人権擁護に関する世論調査」のことです。
- 県調査とは、兵庫県・公益財団法人兵庫県人権啓発協会が平成 30 年 10 月に行った「人権に関する県民意識調査」のことです。

6. 回答者の属性

[1] 性別



[2] 年代



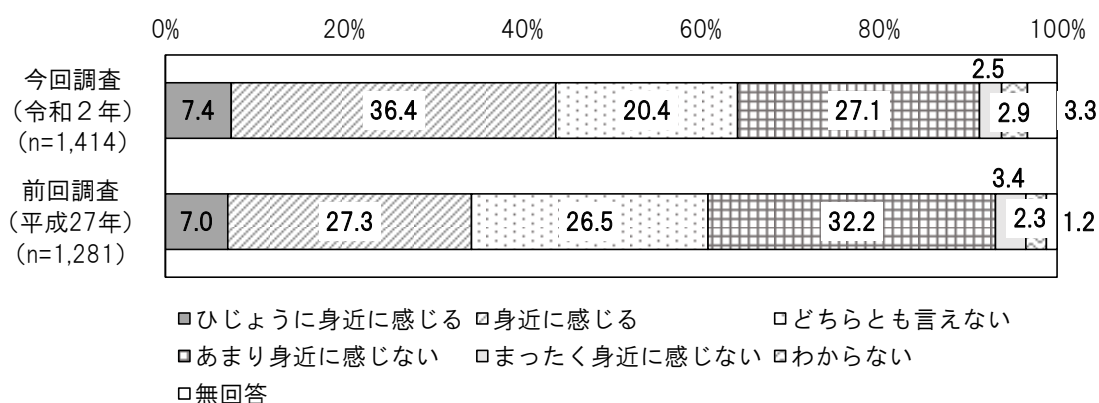
Ⅱ 調査結果

1. あなたの人権意識について

[1] 「人権」の身近さについて

問1	あなたは「人権」をどのくらい身近な問題として感じていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
----	--

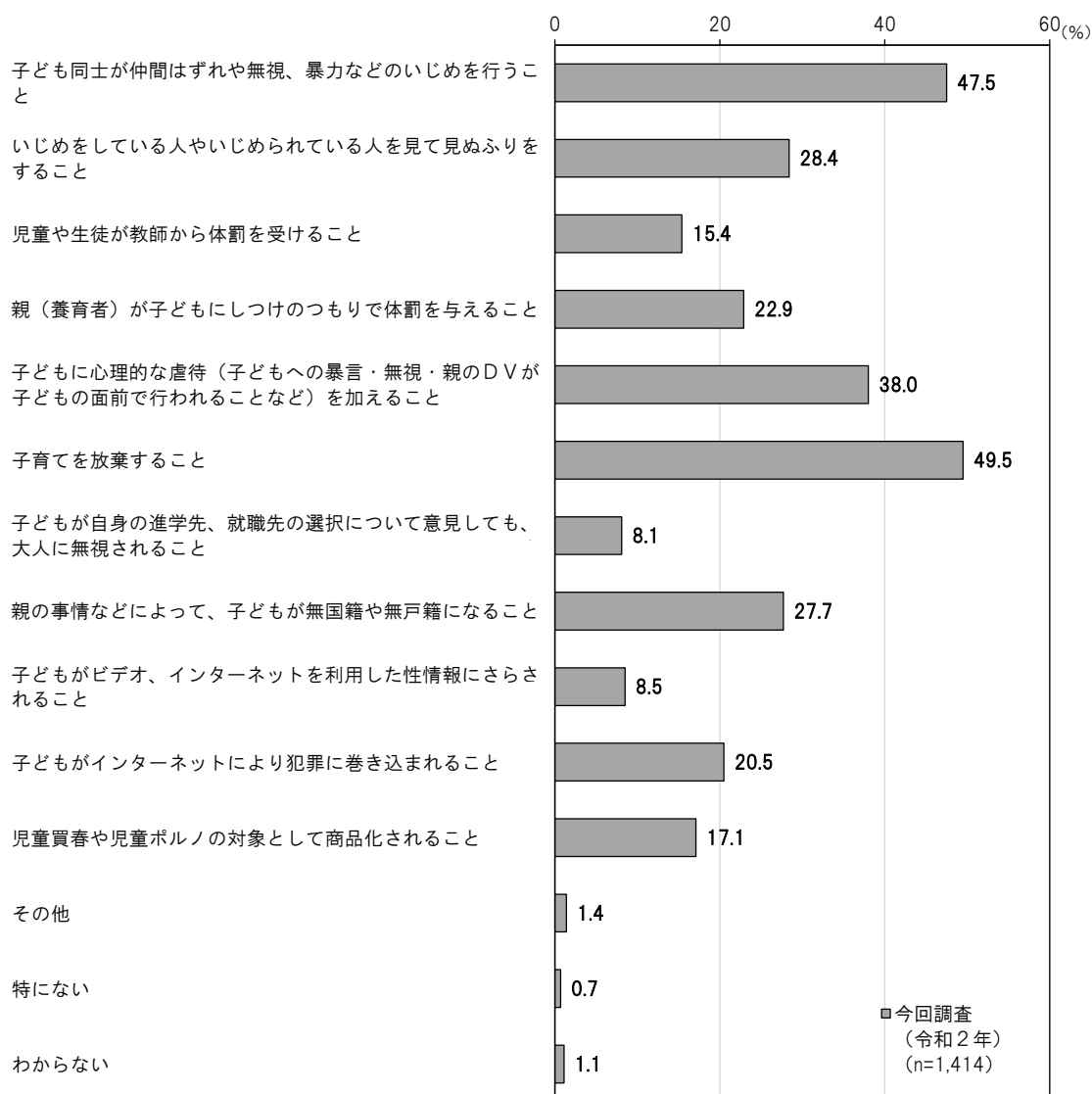
- 「人権」の身近さについては、「身近を感じる」が36.4%と最も高く、「ひじょうに身近を感じる」を合わせた『身近を感じる』が43.8%と4割以上となっています。一方で、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」を合わせた『身近に感じない』は29.6%と3割近くとなっています。
- 前回調査と比較すると、「身近を感じる」は9.1ポイント高く、「あまり身近に感じない」が5.1ポイント低くなっています。また、『身近を感じる』（「ひじょうに身近を感じる」+「身近を感じる」）は9.5ポイント高くなっているのに対し、『身近に感じない』（「あまり身近に感じない」+「まったく身近に感じない」）は6.0ポイント低くなっています。
- 性別にみると、『身近に感じない』（「あまり身近に感じない」+「まったく身近に感じない」）が男性では34.0%と、女性（26.6%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、40～49歳で「どちらとも言えない」が他の年代に比べ、高くなっています。



[2] 子どもに関する人権問題について

問2	子どもに関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。 (※3つまで選んでください)
----	--

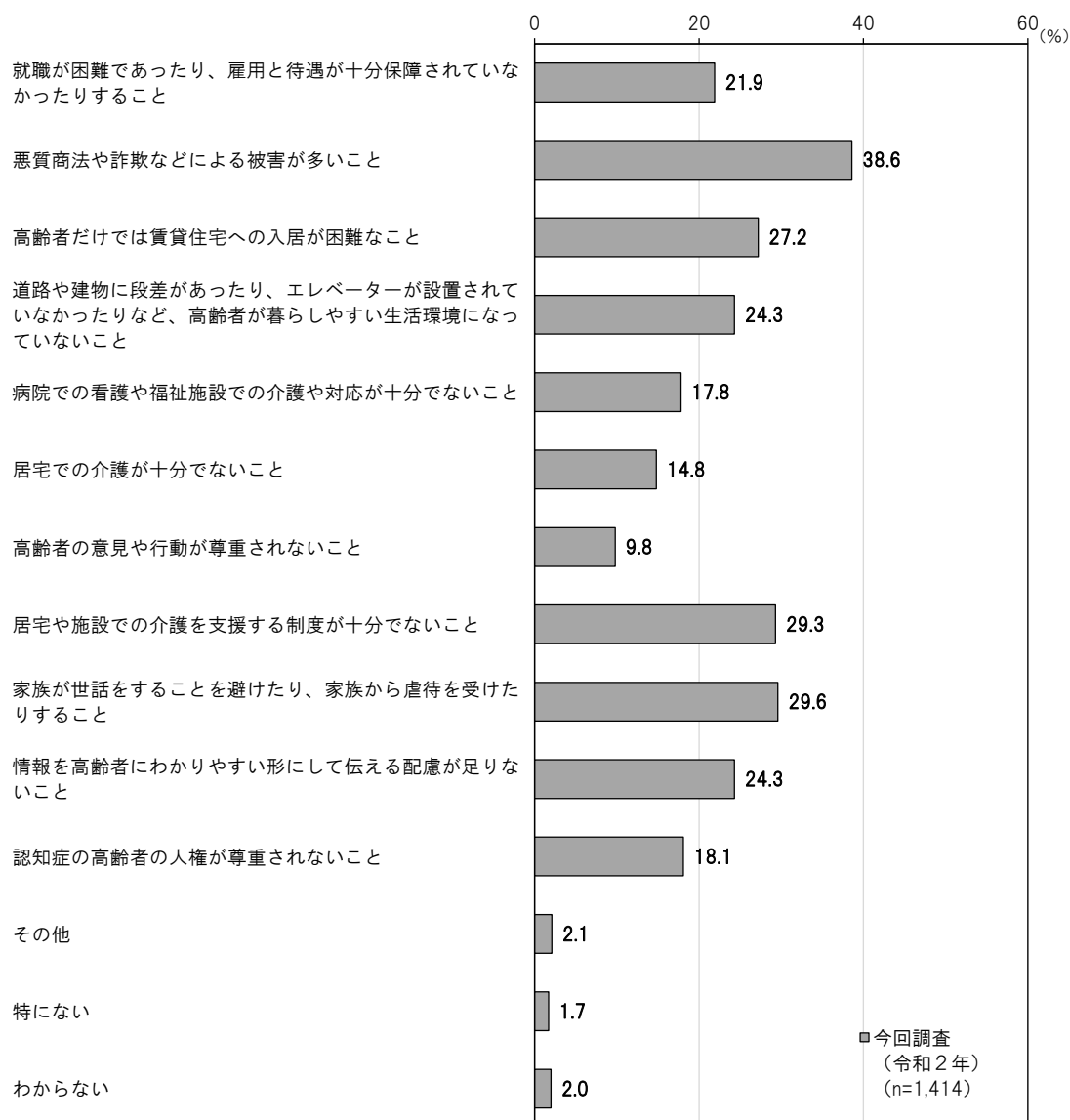
- 子どもに関する人権問題については、「子育てを放棄すること」が49.5%と5割近くを占め最も高く、次いで「子ども同士が仲間はずれや無視、暴力などのいじめを行うこと」(47.5%)、「子どもに心理的な虐待(子どもへの暴言・無視・親のDVが子どもの面前で行われることなど)を加えること」(38.0%)の順となっています。
- 性別にみると、「子育てを放棄すること」が男性では53.2%と、女性(47.3%)に比べて高くなっています。また、女性では「親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること」が30.4%と、男性(24.1%)に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「子どもに心理的な虐待(子どもへの暴言・無視・親のDVが子どもの面前で行われることなど)を加えること」が高く、年代が上がるにつれ「子どもがインターネットにより犯罪に巻き込まれること」が高くなる傾向がみられます。また、18~29歳で「子どもが自身の進学先、就職先の選択について意見しても、大人に無視されること」が他の年代に比べ高くなっています。



[3] 高齢者に関する人権問題について

問3	高齢者に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。 (※3つまで選んでください)
----	--

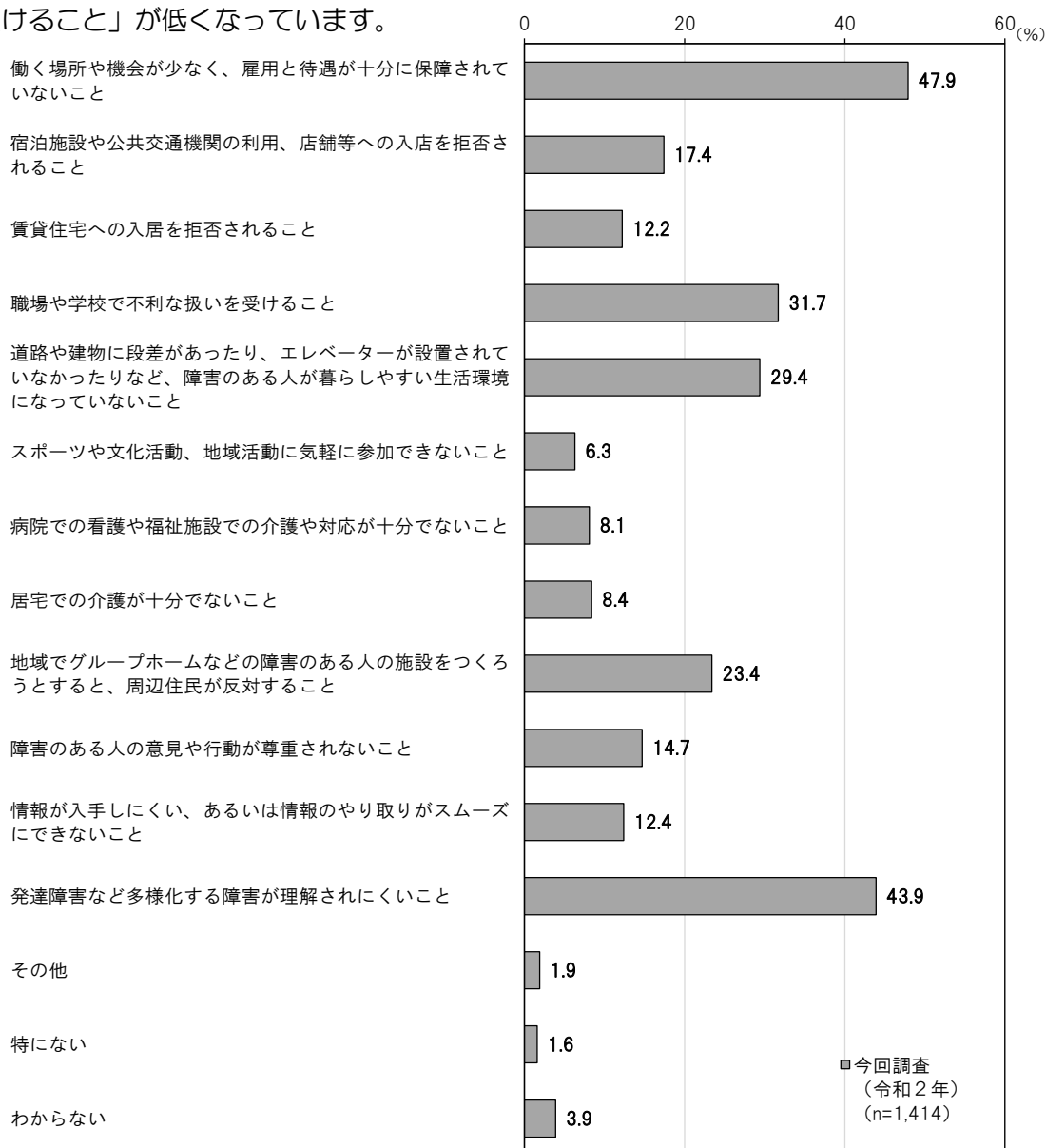
- 高齢者に関する人権問題については、「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」が38.6%と4割近くを占め最も高く、次いで「家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること」(29.6%)、「居宅や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」(29.3%)となっています。
- 性別にみると、「高齢者だけでは賃貸住宅への入居が困難なこと」が女性では29.7%と、男性(23.8%)に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、30～39歳では「家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること」、40～49歳では「居宅や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が最も高くなっています。また、他の年代に比べて、18～29歳では「居宅や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が低く、70歳以上では「悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと」、「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」が高くなっています。



[4] 障害のある人に関する人権問題について

問4	障害のある人に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（※3つまで選んでください）
----	---

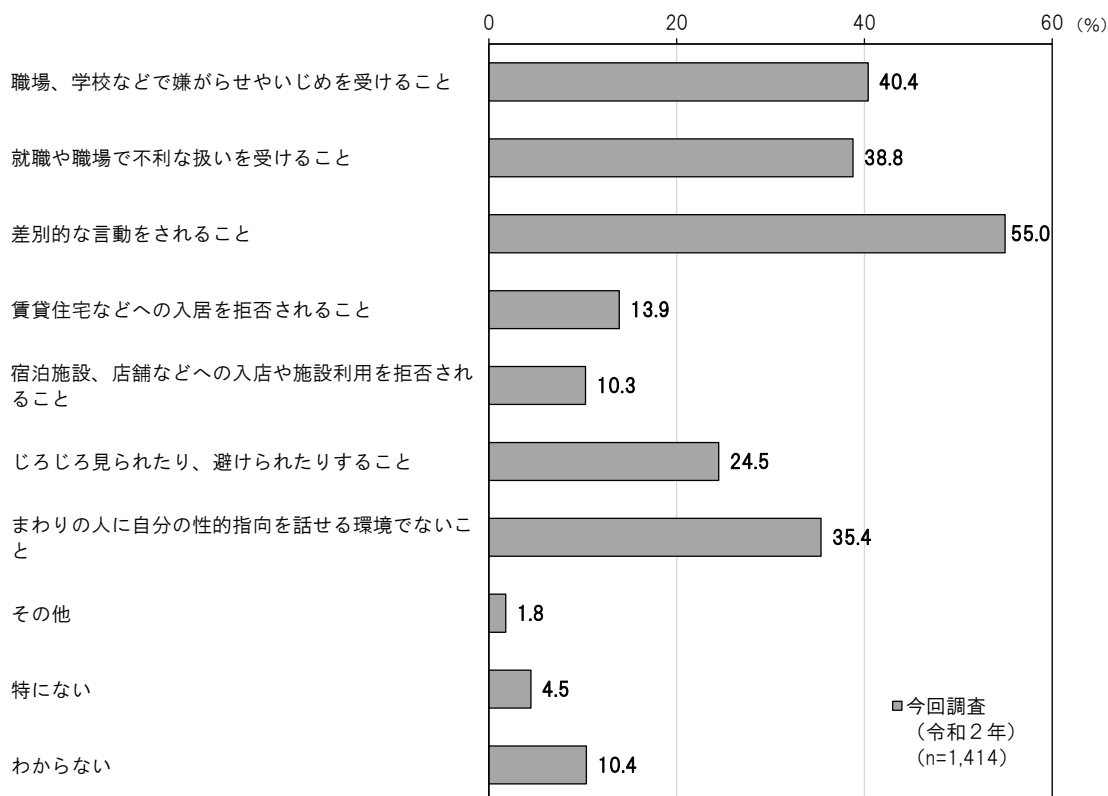
- 障害のある人に関する人権問題については、「働く場所や機会が少なく、雇用と待遇が十分に保障されていないこと」が 47.9%と最も高く、次いで「発達障害など多様化する障害が理解されにくいこと」（43.9%）、「職場や学校で不利な扱いを受けること」（31.7%）となっています。
- 性別にみると、女性では「発達障害など多様化する障害が理解されにくいこと」が 46.4%と最も高くなっています。また、「道路や建物に段差があったり、エレベーターの設置がされていなかったりなど、障害のある人が暮らしやすい生活環境になっていないこと」が女性で 31.7%と、男性（26.1%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれ「道路や建物に段差があったり、エレベーターの設置がされていなかったりなど、障害のある人が暮らしやすい生活環境になっていないこと」が高い傾向がみられます。また、他の年代に比べ、50～59歳で「働く機会や場所が少なく、雇用と待遇が十分に保障されていないこと」が高くなっており、70歳以上では「職場や学校で不利な扱いを受けること」が低くなっています。



[5] 性的指向に関する人権問題について

問5	異性愛、同性愛などといった性的指向に関する事で、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(※3つまで選んでください)
----	---

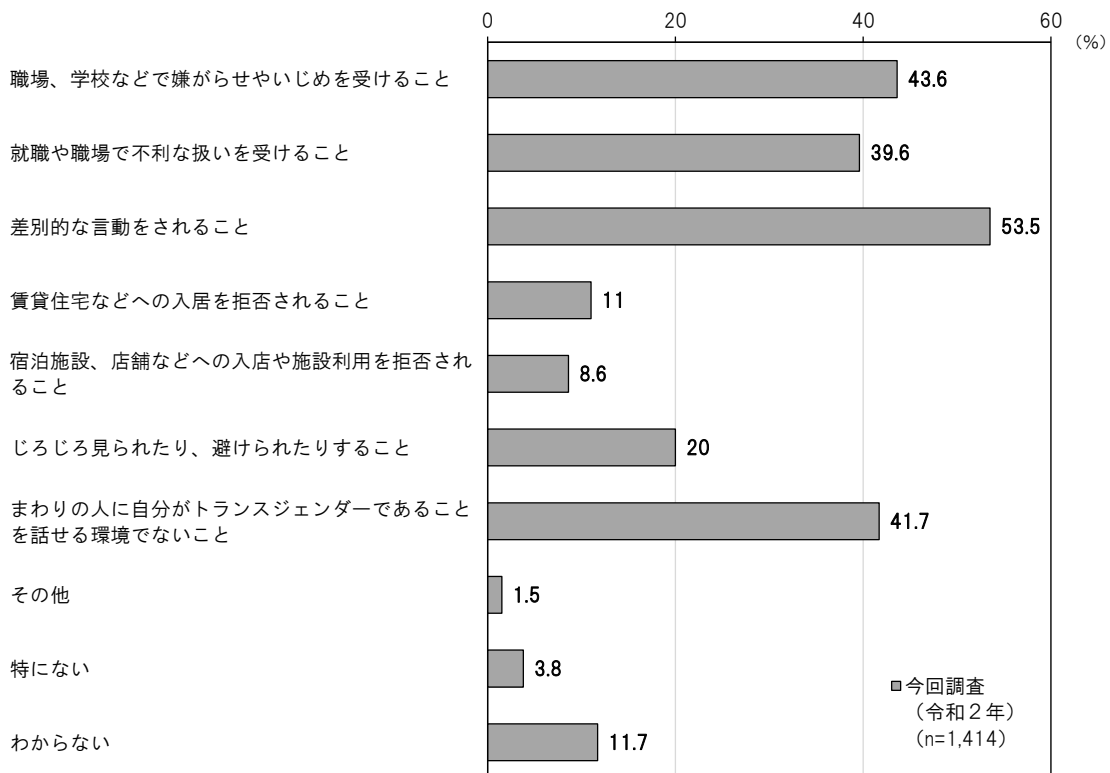
- 性的指向に関する人権問題については、「差別的な言動をされること」が55.0%と半数以上を占め最も高く、次いで「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」(40.4%)、「就職や職場で不利な扱いを受けること」(38.8%)となっています。
- 性別にみると、「就職や職場で不利な扱いを受けること」、「賃貸住宅などへの入店や施設利用を拒否されること」、「まわりの人に自分の性的指向を話せる環境でないこと」が女性で高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「差別的な言動をされること」が高くなる傾向がみられます。また、18～29歳で「宿泊施設、店舗などへの施設利用を拒否されること」が他の年代に比べ、高くなっています。



[6] トランスジェンダーに関する人権問題について

問6	生物学的な性ところの性が一致しないトランスジェンダーに関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（※3つまで選んでください）
----	---

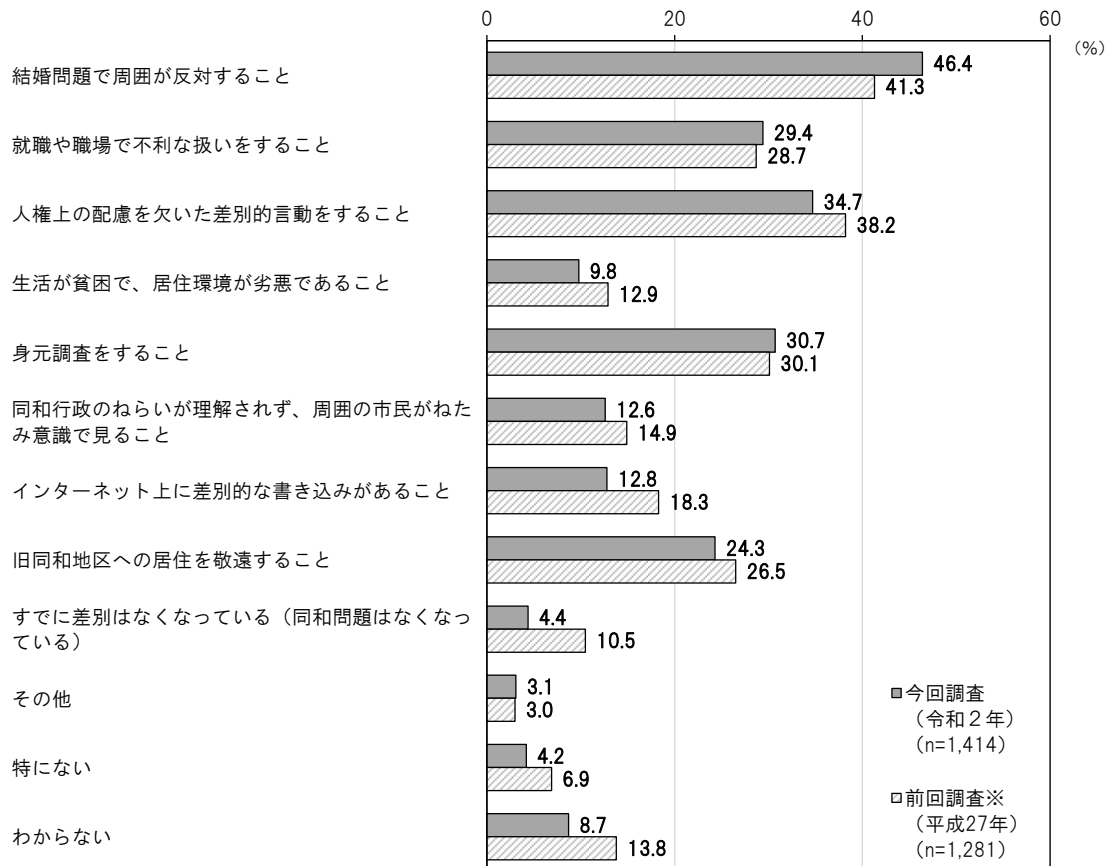
- トランスジェンダーに関する人権問題については、「差別的な言動をされること」が53.5%と最も高く、次いで「職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること」（43.6%）、「まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと」（41.7%）となっています。
- 性別にみると、「就職や職場で不利な扱いを受けること」、「まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと」が女性で高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「差別的な言動をされること」が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、70歳以上で「就職や職場で不利な扱いを受けること」が低く、18～29歳で「まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと」が高くなっています。



【7】 同和問題（部落差別）に関する人権問題について

問7	同和問題（部落差別）に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（※3つまで選んでください）
----	---

- 同和問題（部落差別）に関する人権問題については、「結婚問題で周囲が反対すること」が46.4%と最も高く、次いで「人権上の配慮を欠いた差別的言動をすること」（34.7%）、「身元調査をすること」（30.7%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「結婚問題で周囲が反対すること」が前回から5.1ポイント高くなる一方で、「すでに差別はなくなっている（同和問題はなくなっている）」が6.1ポイント低くなっています。また、「わからない」も前回より5.1ポイント低くなっています。
- 性別にみると、「結婚問題で周囲が反対すること」、「就職や職場で不利な扱いをすること」が女性で高くなっています。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれ「身元調査をすること」、「旧同和地区への居住を敬遠すること」が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、「就職や職場で不利な扱いをすること」が30～39歳では高く、70歳以上では低くなっています。18～29歳では「わからない」が他の年代に比べ、高くなっています。



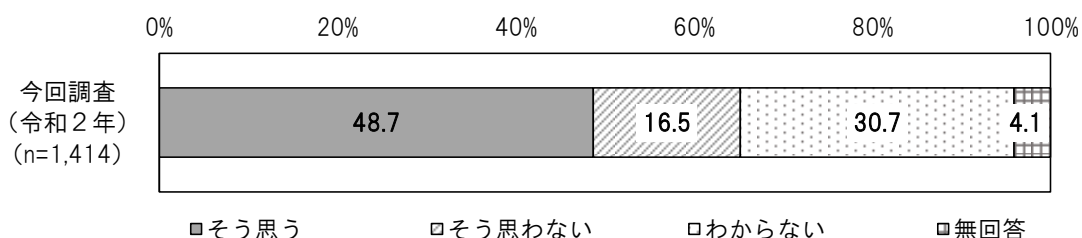
※前回調査では項目をいくつでも選択可能

[8] 旧同和地区や部落差別に関する人権問題について

問8	あなたは、旧同和地区や部落差別について、どう思いますか。ア～エそれぞれについて、①～③のうち、ご自身のお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。
----	--

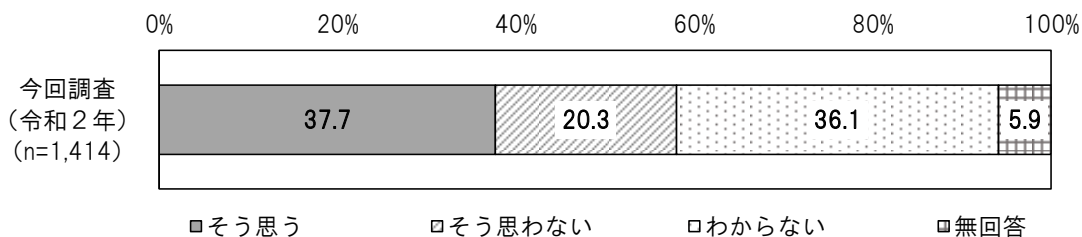
ア 部落差別は、いまだにあると思う

- ・「部落差別は、いまだにあると思う」の考え方については、「そう思う」が48.7%と5割近くを占め最も高くなっています。
- ・性別にみると、「そう思わない」が男性では21.1%と、女性（13.7%）に比べ高くなっています。
- ・年代別にみると、18～29歳では「わからない」が48.6%と最も高くなっています。また、30歳以上の年代については、年代が上がるにつれ「そう思う」が低くなる傾向がみられます。



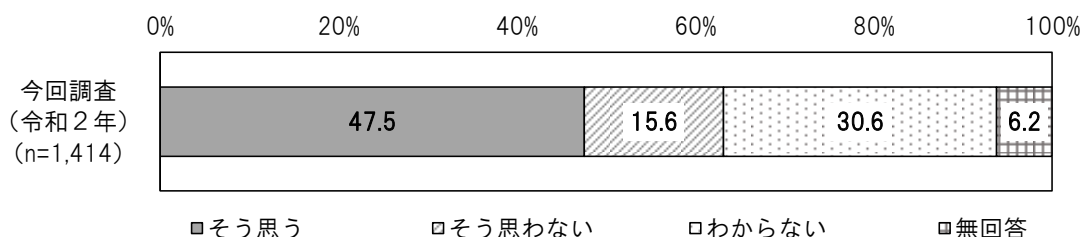
イ 旧同和地区には住みたくない

- ・「旧同和地区には住みたくない」の考え方については、「そう思う」が37.7%と3割以上を占め最も高くなっています。
- ・性別にみると、男性では「そう思う」が38.8%と最も高く、女性では「わからない」が39.4%と最も高い結果となっています。また、男性では「そう思わない」が24.5%と、女性（18.3%）に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、18～29歳と60～69歳では「わからない」が最も高く、それ以外の年代では「そう思う」が最も高くなっています。また、18～29歳で「そう思う」が他の年代に比べ、低くなっています。



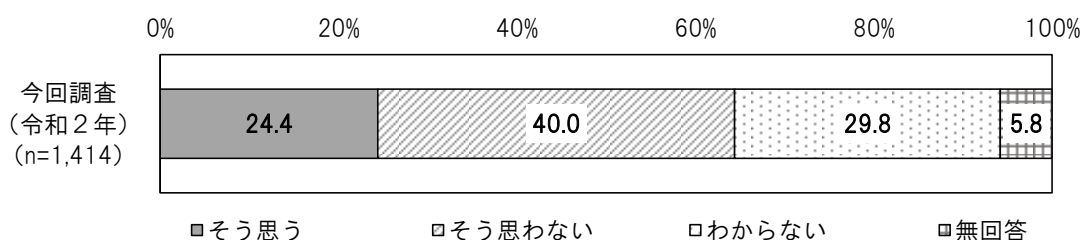
ウ 身内（又は本人）の結婚相手が旧同和地区の人で、それを理由に家族や親族が反対するのはおかしい

- 「身内（又は本人）の結婚相手が旧同和地区の人で、それを理由に家族や親族が反対するのはおかしい」の考え方については、「そう思う」が47.5%と4割以上を占め最も高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、「そう思う」が18～29歳では他の年代に比べ高い一方で、70歳以上で低くなっています。



エ 部落差別はそっとしていれば自然になくなる

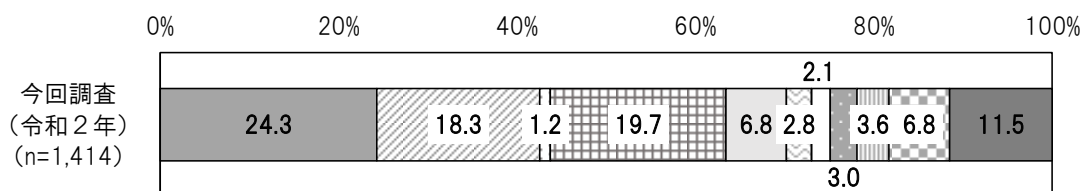
- 「部落差別はそっとしていれば自然になくなる」については、「そう思わない」が40.0%と4割を占め最も高くなっています。
- 性別にみると、「そう思う」が男性では29.1%と、女性（21.3%）より高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上では「そう思う」が最も高くなっています。また、30～39歳と50～59歳では「そう思わない」が他の年代に比べ高くなっています。



[9] 同和問題が生じる原因や背景について

問9	部落差別などの同和問題が生じる原因や背景として、あなたが一番思い当たるのは次のどれですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。
----	---

- 同和問題が生じる原因や背景については、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えらるる偏見・差別意識」が 24.3%と最も高く、次いで「社会全体に残る差別意識」（19.7%）、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」（18.3%）となっています。
- 性別にみると、男性では「社会全体に残る差別意識」が 19.5%と最も高くなっています。また、女性では「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えらるる偏見・差別意識」が 28.4%と最も高く、男性より 9.6 ポイント高くなっています。
- 年代別にみると、70 歳以上では「社会全体に残る差別意識」が 23.9%と最も高くなっています。また、18～29 歳では「わからない」が 11.6%と他の年代と比べ高くなっています。



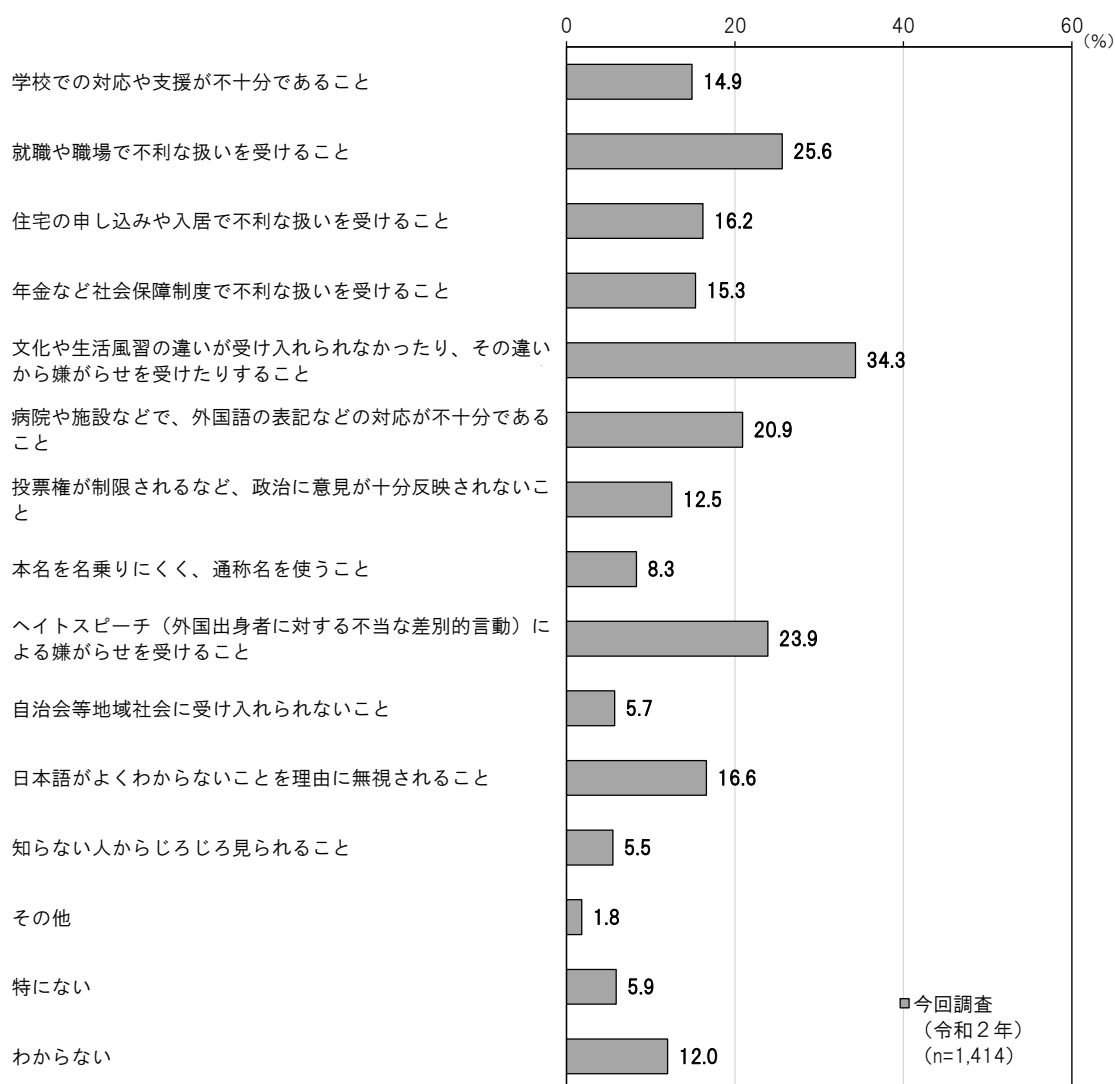
- 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えらるる偏見・差別意識
- 地域の人から伝えられる偏見・差別意識
- 職場などで伝えられる偏見・差別意識
- 社会全体に残る差別意識
- 個人の理解不足
- 学校での人権教育の不十分さ
- 行政の人権問題の啓発の不十分さ
- その他
- 特にない
- わからない
- 無回答

[10] 日本に居住している外国人に関する人権問題について

問 10

日本に居住している外国人に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（※3つまで選んでください）

- 日本に居住している外国人に関する人権問題については、「文化や生活風習の違いが受け入れられなかったり、その違いから嫌がらせを受けたりすること」が 34.3%と最も高く、次いで「就職や職場で不利な扱いを受けること」（25.6%）、「ヘイトスピーチ（外国出身者に対する不当な差別的言動）による嫌がらせを受けること」（23.9%）となっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「就職や職場で不利な扱いを受けること」が高くなる傾向がみられます。また、70 歳以上で「文化や生活風習の違いが受け入れられなかったり、その違いから嫌がらせを受けたりすること」、「ヘイトスピーチ（外国出身者に対する不当な差別的言動）による嫌がらせを受けること」が他の年代に比べ、低くなっています。



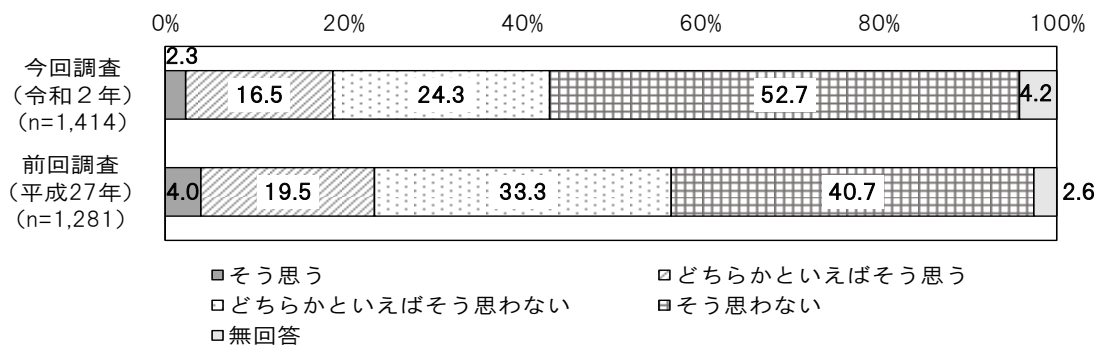
2. ご自身の考え方・行動、体験について

[1] 人権・差別の考え方について、ご自身のお考えに最も近いもの

問 11	次のア～クそれぞれについて、①～④のうち、ご自身のお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。
------	--

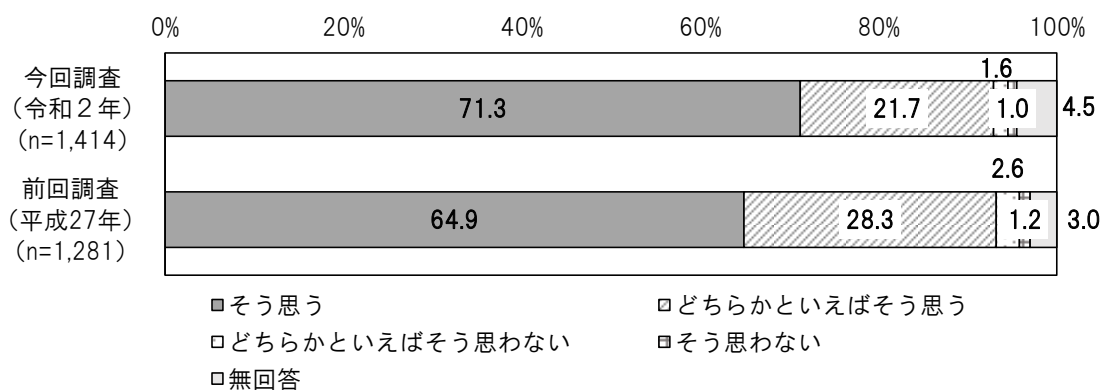
ア 「男は仕事、女は家庭」という考えに賛成である

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「そう思わない」が 52.7%と半数以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』は 77.0%と7割以上となっています。また、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）は 18.8%と2割近くとなっています。
- 前回調査と比較すると、「どちらかといえばそう思わない」が 9.0 ポイント低く、「そう思わない」が 12.0 ポイント高くなっています。
- 性別にみると、『そう思わない』（どちらかといえばそう思わない）+「そう思わない」は女性で 82.6%と、男性（69.9%）より 12.7 ポイント高くなっています。
- 年代別にみると、『そう思わない』（どちらかといえばそう思わない）+「そう思わない」が 70 歳以上で、他の年代に比べ低くなっています。



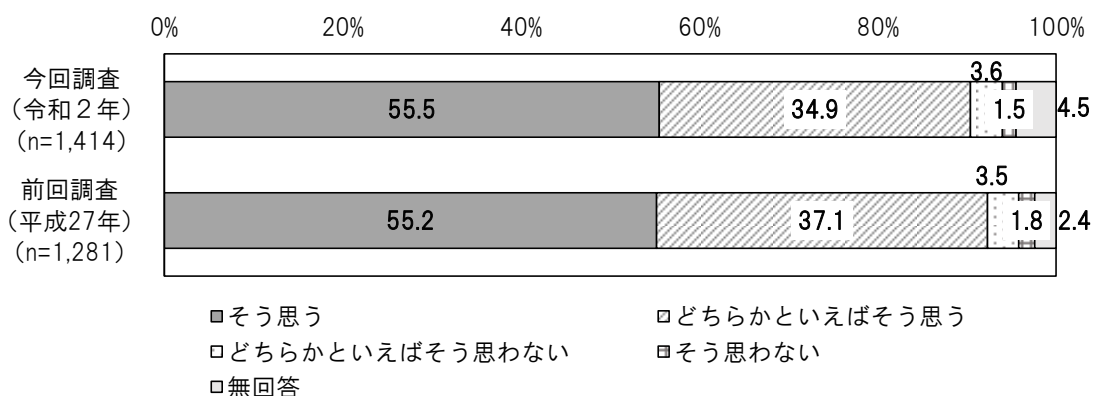
イ 人権は人が幸せに暮らしていく上で大切なものである

- ・「人権は人が幸せに暮らしていく上で大切なものである」という考え方については、「そう思う」が71.3%と7割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は93.0%と、ほとんどの人が人権は人が暮らしていく上で大切なものだと思っている結果となっています。
- ・前回調査と比較すると、「そう思う」が6.4ポイント高く、「どちらかといえばそう思う」が6.6ポイント低くなっています。
- ・性別による大きな差異はみられません。
- ・年代別にみると、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が70歳以上で、他の年代に比べ低くなっています。



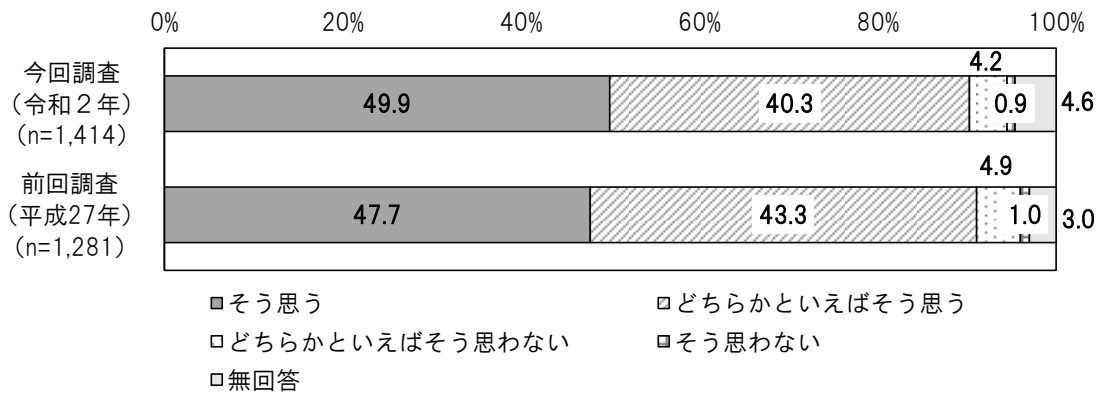
ウ 差別をすることは、人間として最も恥ずべき行為である

- ・「差別をすることは、人間として最も恥ずべき行為である」という考え方については、「そう思う」が55.5%と半数以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は90.4%と、ほとんどの人が差別をすることは、人間として最も恥ずべき行為だと思っている結果となっています。
- ・前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- ・性別による大きな差異はみられません。
- ・年代別にみると、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が70歳以上で、他の年代に比べ低くなっています。



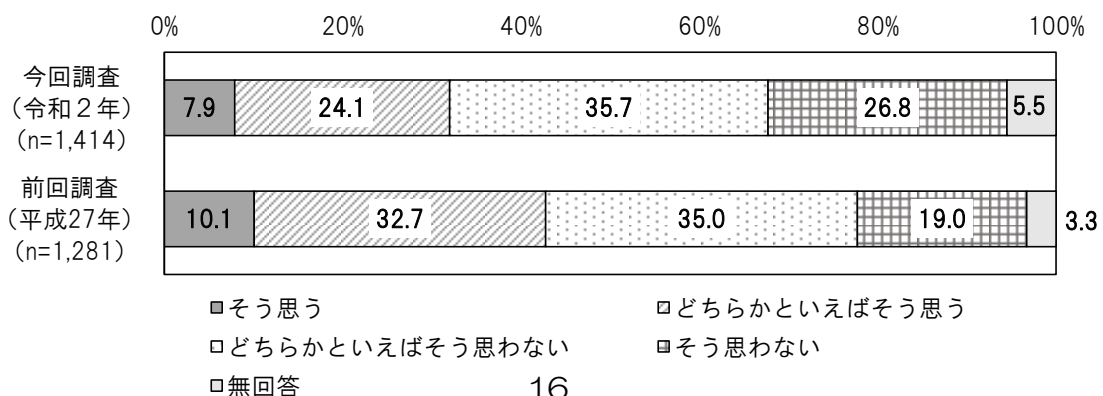
エ 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある

- 「社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある」という考え方については、「そう思う」が49.9%と半数近くを占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は90.2%と、ほとんどの人が社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要があると思っている結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、18～49歳では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっており、それ以外の年代では「そう思う」が最も高くなっています。



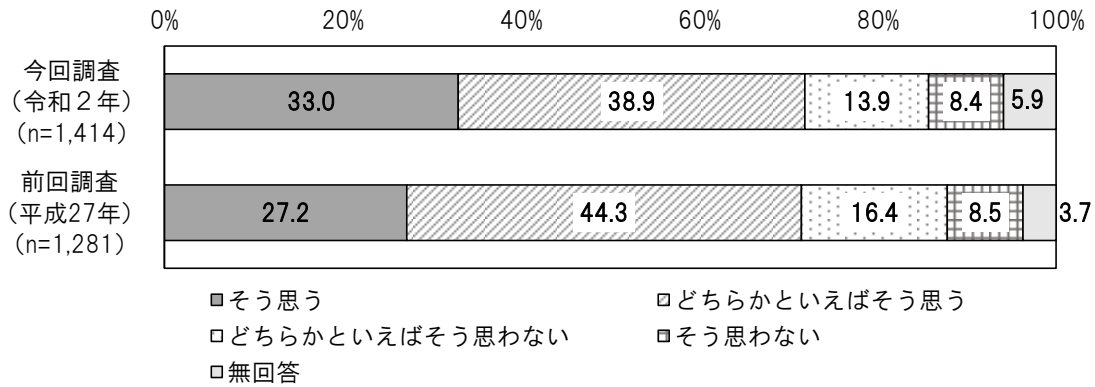
オ 差別の原因は、差別された人の側にもある

- 「差別の原因は、差別された人の側にもある」という考え方については、「どちらかといえばそう思わない」が35.7%と3割以上を占め最も高くなっており、「そう思わない」を合わせた『そう思わない』は62.5%と6割以上の方が、差別の原因は、差別された人の側にもあるとは思わない結果となっています。
- 前回調査と比較すると、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が10.8ポイント低くなっており、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が8.5ポイント高くなっています。
- 性別にみると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が、女性で66.9%と、男性（56.8%）より10.1ポイント高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、30～39歳で『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が高くなっており、70歳以上では低くなっています。



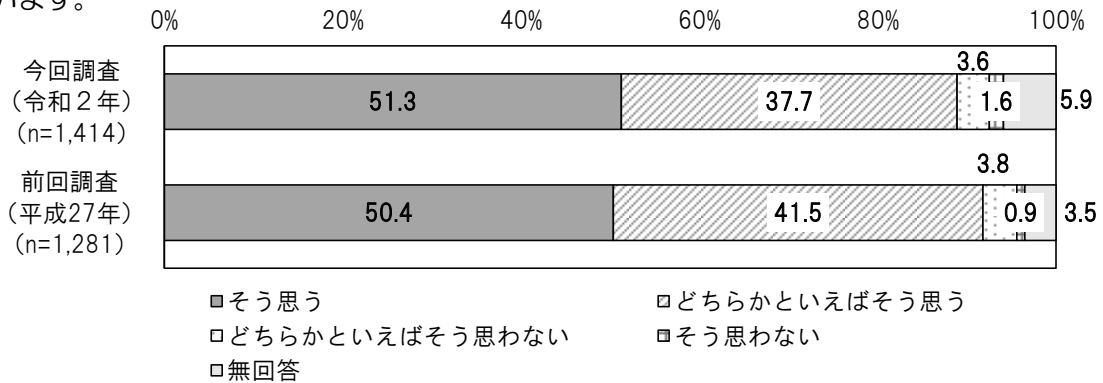
カ 「みんな同じがよい」という考え方が一人ひとりの個性や違いを排除することにつながる

- 「みんな同じがよい」という考え方が一人ひとりの個性や違いを排除することにつながる」という考え方については、「どちらかといえばそう思う」が38.9%と4割近くを占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は71.9%と7割以上の人が、「みんな同じがよい」という考え方が一人ひとりの個性や違いを排除することにつながると思っている結果となっています。
- 前回調査と比較すると、「そう思う」が5.8ポイント高くなっている一方で、「どちらかといえばそう思う」は5.4ポイント低くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、18～29歳で『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が高くなっており、70歳以上で低くなっています。



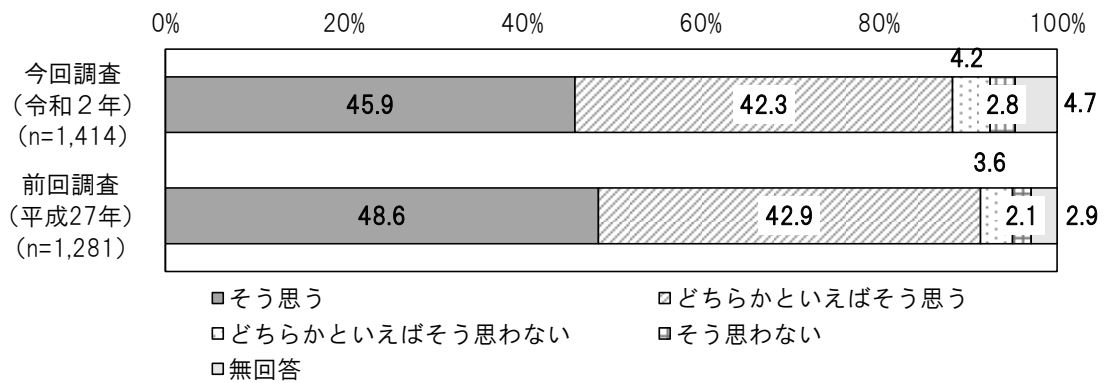
キ 人権を強調するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくない

- 「人権を強調するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくない」という考え方については、「そう思う」が51.3%と半数以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は89.0%と9割近くの人が、人権を強調するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくないと思っている結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、30～39歳で「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。また、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が70歳以上で、他の年代に比べ低くなっています。



ク いかなる差別も完全になくすことはむずかしい

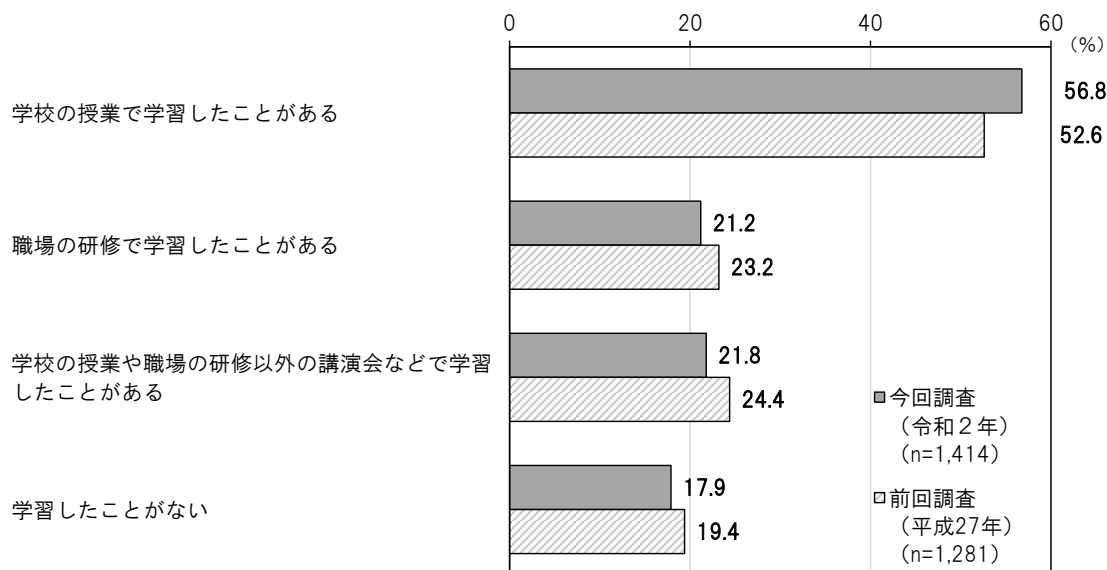
- 「いかなる差別も完全になくすことはむずかしい」という考え方については、「そう思う」が45.9%と4割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』は88.2%と9割近くの方が、いかなる差別も完全になくすことはむずかしいと思っている結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、50歳以上では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。また、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が70歳以上で、他の年代に比べ低くなっています。



[2] 人権や差別問題における学習経験とその感想について

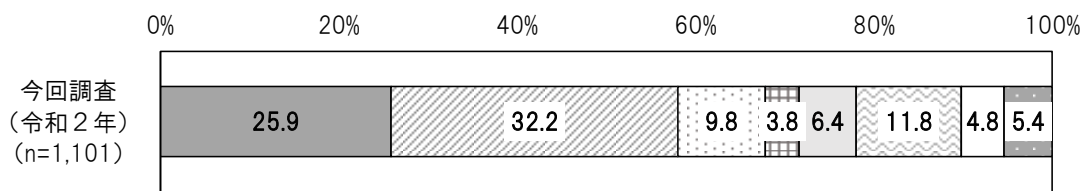
問 12	あなたはこれまでに、学校の授業や職場の研修、その他の講演会などにおいて、人権や差別問題について学習したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
------	---

- 人権や差別問題における学習経験については、「学校の授業で学習したことがある」が56.8%と半数以上を占め最も高くなっています。また、「学習したことがない」は17.9%と1割以上の人は人権や差別問題における学習経験がない結果となっています。
- 前回調査と比べて大きな差異はみられません。
- 性別にみると、「学校の授業で学習したことがある」や「学校の授業や職場の研修以外の講演会などで学習したことがある」では女性が男性より高くなっており、「職場の研修で学習したことがある」では男性が女性より高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上では「学習したことがない」が最も高くなっており、「学校の授業で学習したことがある」が他の年代に比べて低くなっています。18～29歳では、他の年代に比べ、「学校の授業で学習したことがある」が高くなっている一方で、「職場の研修で学習したことがある」は低くなっています。また、年代が上がるにつれ、「学校の授業や職場の研修以外の講演会などで学習したことがある」が高くなる傾向がみられます。



問 13 問 12 で「学校の授業で学習したことがある」、「職場の研修で学習したことがある」、「学校の授業や職場の研修以外の講演会などで学習したことがある」のいずれかを回答された方にお聞きします。その学習により、どのような感想を持ちましたか。ご自身のお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- 人権学習の感想については、「人権侵害（差別）の現実がよくわかった」が32.2%と3割以上を占めと最も高く、次いで「人権の大切さがよくわかった」（25.9%）、「建て前的な話でしんどかった」（11.8%）となっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、70 歳以上では「人権の大切さがよくわかった」が最も高くなっています。また、18～29 歳で「建て前的な話でしんどかった」が他の年代に比べ高くなっています。



- 人権の大切さがよくわかった
- 差別は許せないと思う気持ちが強まった
- 自分にはあまり関係のない話だと思った
- その他
- 人権侵害（差別）の現実がよくわかった
- 話が難しくてよくわからなかった
- 建て前的な話でしんどかった
- 無回答

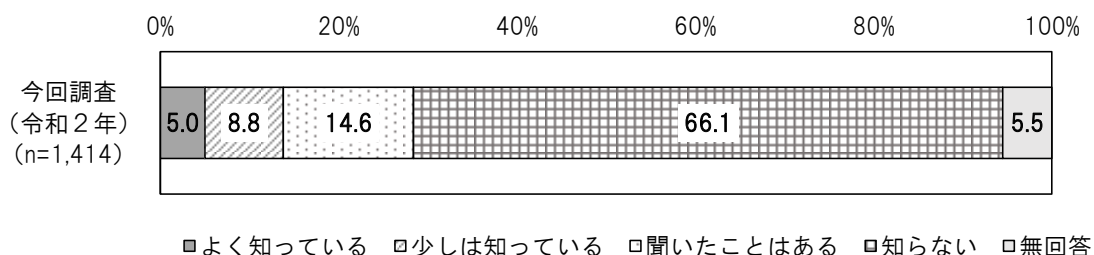
[3] 市立厚生館の認知・事業内容の認知と厚生館についての考え

問 14

市立厚生館についてお聞きします。次のア～カそれぞれについて、①～④のうち、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

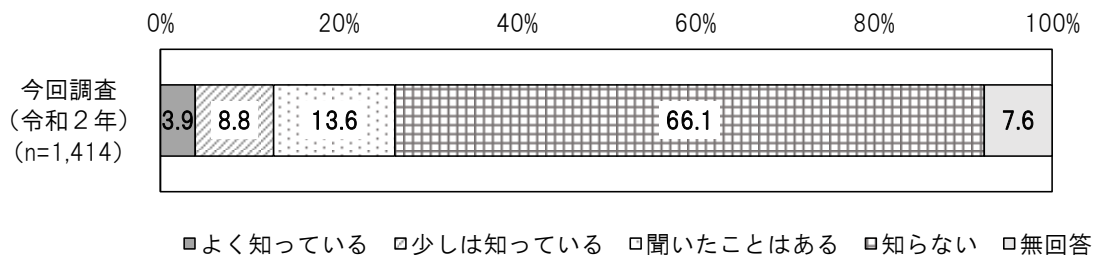
ア 「市立厚生館」という施設について

- ・「市立厚生館」という施設についての認知度については、「知らない」が66.1%と6割以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(14.6%)となっています。
- ・性別にみると、「知らない」が男性で69.5%と、女性(63.9%)に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、年代が下がるにつれ、「知らない」が高くなる傾向がみられます。



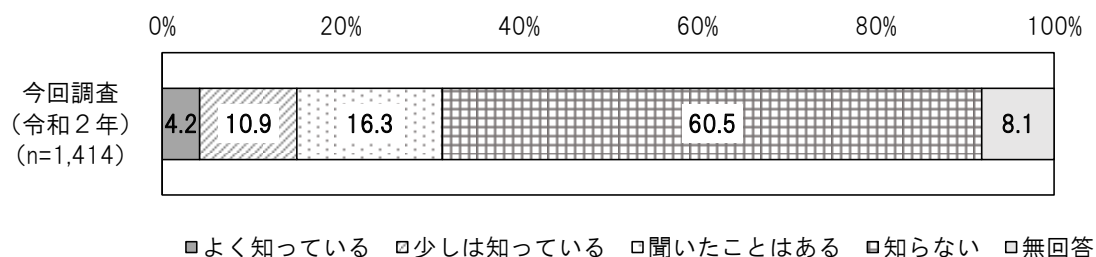
イ 「教養文化事業」として書道や手芸教室などを開催している

- ・「教養文化事業」として書道や手芸教室などを開催していることについての認知度については、「知らない」が66.1%と6割以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(13.6%)となっています。
- ・性別にみると、「知らない」が男性で71.8%と、女性(63.4%)に比べて高くなっています。
- ・年代別にみると、70歳以上で「知らない」が他の年代に比べ低くなっています。また、年代が下がるにつれ、「知らない」が高くなる傾向がみられます。



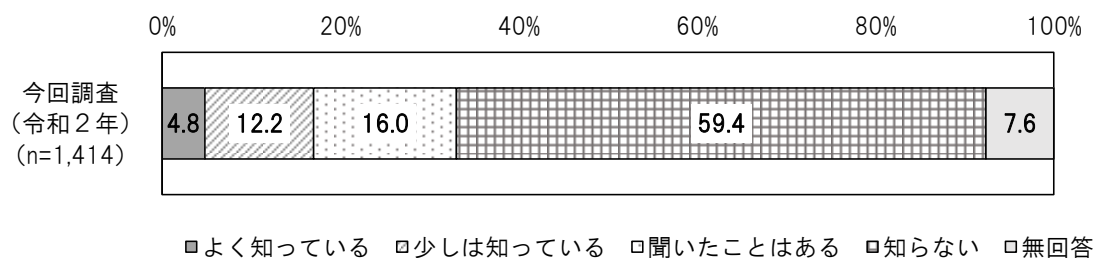
ウ 「健康増進事業」として体操などの教室を開催している

- 「健康増進事業」として体操などの教室を開催していることについての認知度については、「知らない」が60.5%と6割以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(16.3%)となっています。
- 性別にみると、「知らない」が男性で67.7%と、女性(56.4%)に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上で「知らない」が他の年代に比べ低くなっています。また、年代が下がるにつれ、「知らない」が高くなる傾向がみられます。



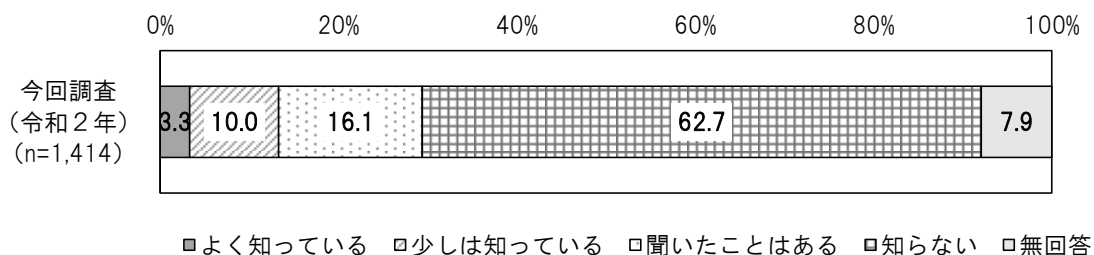
エ 「地域交流促進事業」として厚生館単独や自治会・子供会などと連携して様々な事業を行っている

- 「地域交流促進事業」として厚生館単独や自治会・子供会などと連携して様々な事業を行っていることについての認知度については、「知らない」が59.4%と6割近くを占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(16.0%)となっています。
- 性別にみると、「知らない」が男性で65.2%と、女性(56.1%)に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上で「知らない」が他の年代に比べ、低くなっています。また、年代が下がるにつれ、「知らない」が高くなる傾向がみられます。



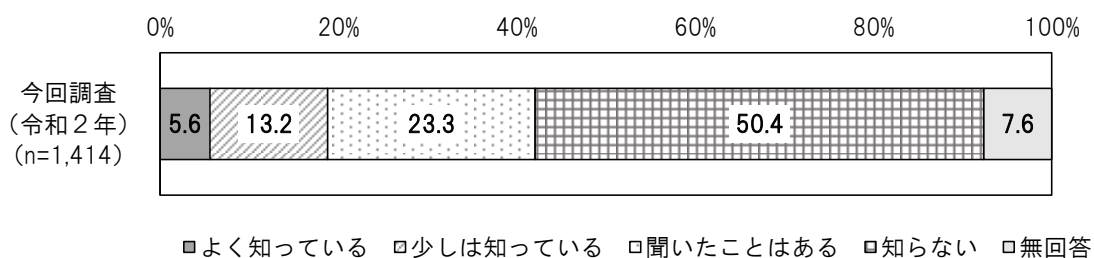
オ 人権に関する様々な講演会や研修会を行っている

- 人権に関する様々な講演会や研修会を行っていることについての認知度については、「知らない」が62.7%と6割以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(16.1%)となっています。
- 性別にみると、「知らない」が男性で66.6%と、女性(61.0%)に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、「知らない」が30~39歳で高くなっており、70歳以上で低くなっています。



カ 「こども食堂」をはじめとする支援事業を行っている

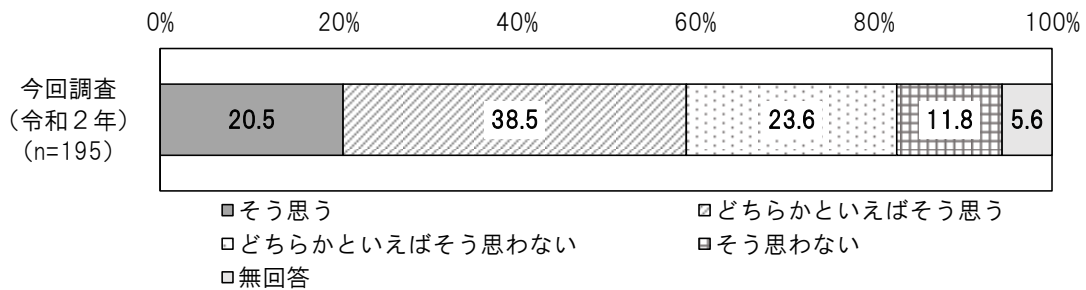
- 「こども食堂」をはじめとする支援事業を行っていることについての認知度については、「知らない」が50.4%と半数以上を占め最も高くなっており、次いで「聞いたことはある」(23.3%)となっています。
- 性別にみると、「少しは知っている」が女性で16.0%と、男性(9.1%)に比べて高くなっています。また、「知らない」が男性で56.1%と、女性(46.6%)に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上で「知らない」が他の年代に比べ低くなっています。



問 15	問 14 のアで「よく知っている」、「少しは知っている」と回答された方にお聞きします。次のア～カそれぞれについて、①～④のうち、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。
------	--

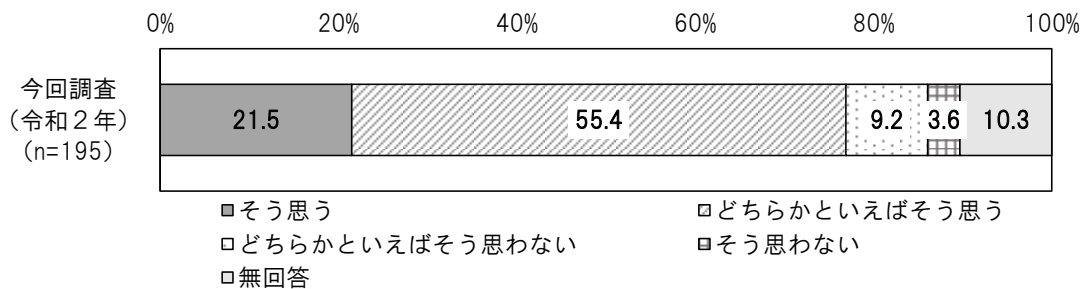
ア 「市立厚生館」という名称は適当である

- 「市立厚生館」という名称は適当であるという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が38.5%と4割近くを占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は59.0%と6割近くとなっています。
- 性別にみると、男性で「そう思う」、「そう思わない」が高く、女性で「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」が低くなっています。
- 年代別にみると、30～39歳では「どちらかといえばそう思う」、40～49歳では「どちらかといえばそう思わない」が最も高くなっています。



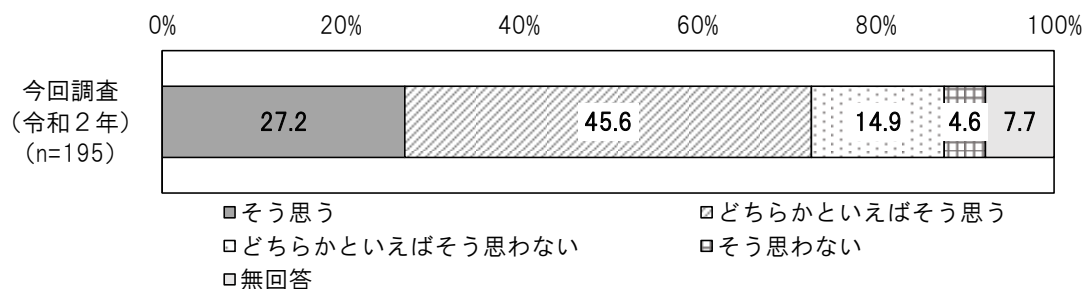
イ 厚生館主催の各種教室、講座及びイベントの内容は、適切である

- 厚生館主催の各種教室、講座及びイベントの内容は、適切であるという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が55.4%と半数以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は76.9%と7割以上となっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、70歳以上で『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が他の年代に比べ低くなっています。



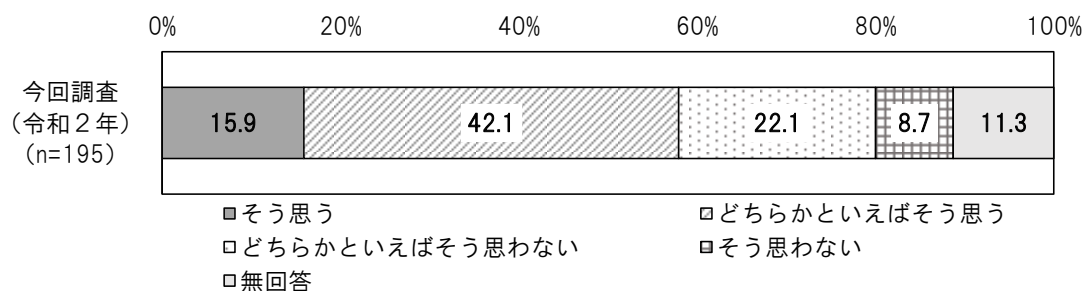
ウ 厚生館が、地域交流の場として活用されている

- 厚生館が、地域交流の場として活用されているという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が 45.6%と4割以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は 72.8%と7割以上となっています。
- 性別にみると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が男性で 23.1%と、女性（17.0%）より高くなっています。
- 年代別にみると、70 歳以上では「そう思う」が最も高くなっています。



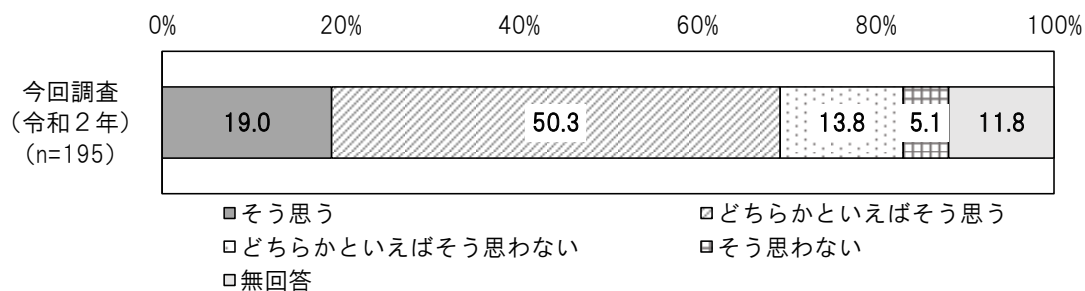
エ 厚生館が、人権に関する問題をはじめ、様々な相談の窓口となっている

- 厚生館が、人権に関する問題をはじめ、様々な相談の窓口となっているという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が 42.1%と4割以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は 58.0%と6割近くとなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、60～69 歳では「どちらかといえばそう思わない」が最も高くなっています。また、70 歳以上で『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が他の年代に比べ低くなっています。



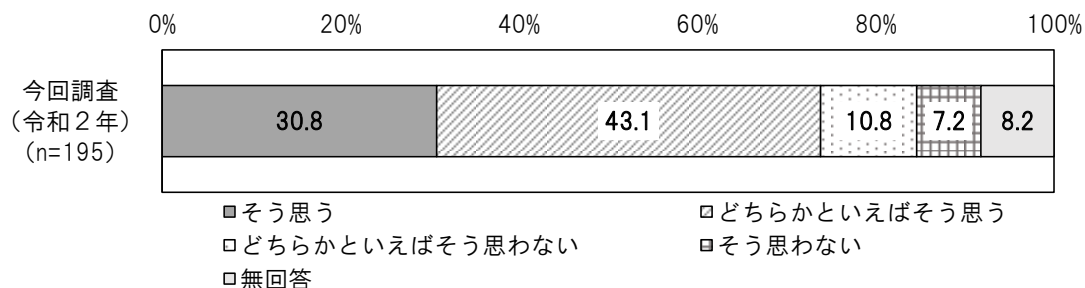
オ 厚生館で開催する人権に関する様々な講演会や研修会は、適切である

- 厚生館で開催する人権に関する様々な講演会や研修会は、適切であるという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が50.3%と半数以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は69.3%と7割近くとなっています。
- 性別にみると、『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が女性で73.2%と、男性（61.5%）に比べ高くなっています。また、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が男性で26.9%と、女性（14.3%）に比べて高くなっています。
- 年代別による大きな差異はみられません。



カ 地域にとって、厚生館は必要なものである

- 地域にとって、厚生館は必要なものであるという考えについては、「どちらかといえばそう思う」が43.1%と4割以上を占め最も高くなっており、「そう思う」を合わせた『そう思う』は73.9%と7割以上となっています。
- 性別にみると、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」）が男性で23.1%と、女性（15.2%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上では「そう思う」が最も高くなっています。また、30～39歳で『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が他の年代に比べ高くなっています。

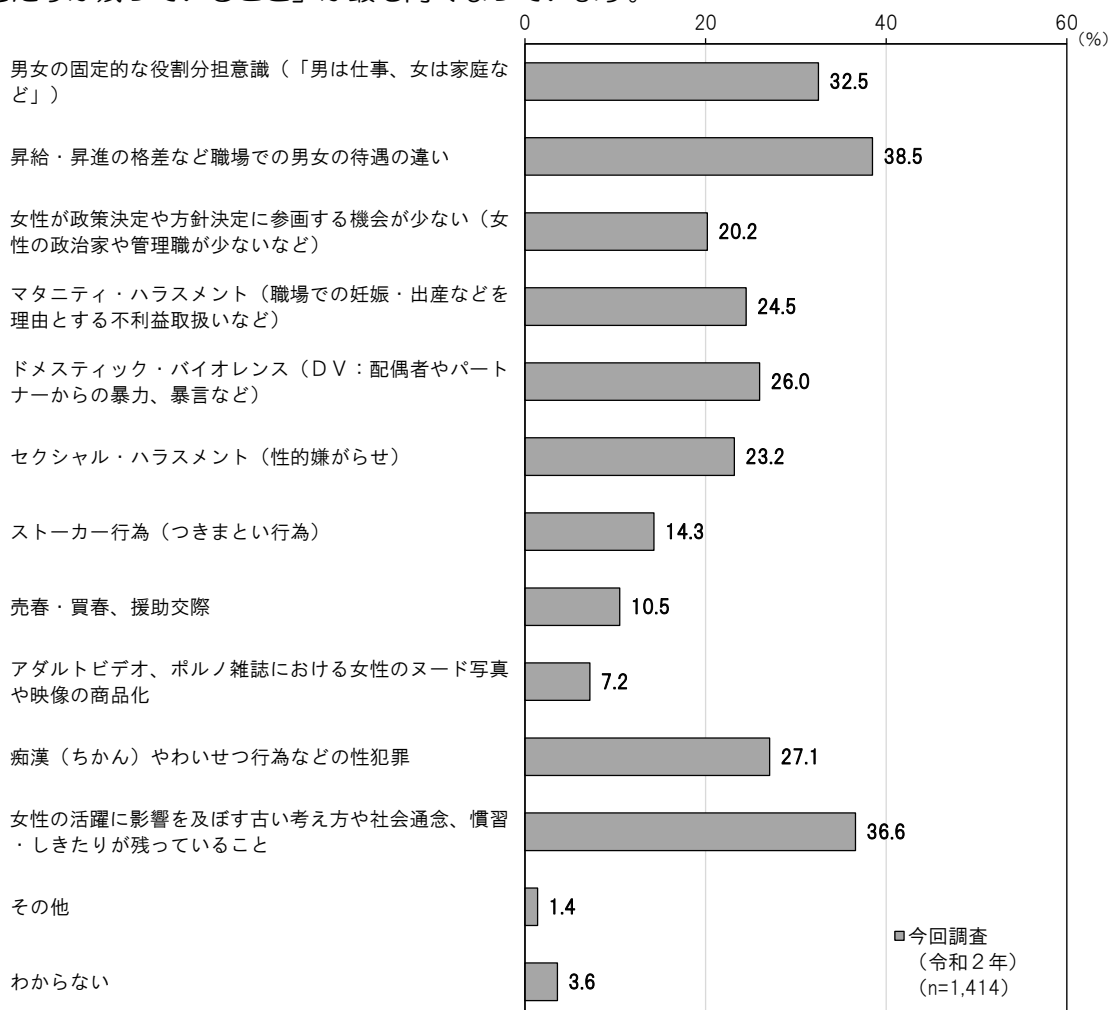


3. 男女共同参画に関する考えについて

[1] 女性に関する人権問題について

問 16	女性に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。 (※3つまで選んでください)
------	---

- 女性に関する人権問題については、「昇給・昇進の格差など職場での男女の待遇の違い」が38.5%と4割近くを占め最も高く、次いで「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」(36.6%)、「男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭など」)」(32.5%)となっています。
- 性別にみると、「昇給・昇進の格差など職場での男女の待遇の違い」、「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」で女性が男性より高くなっており、「ストーカー行為(つきまとい行為)」で男性が女性より高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭など」)」、「マタニティ・ハラスメント(職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど)」が上がる傾向が見られ、年代が上がるにつれ「女性が政策決定や方針決定に参画する機会が少ない(女性の政治家や管理職が少ないなど)」、「売春・買春、援助交際」が上がる傾向がみられます。また、18~29歳では「マタニティ・ハラスメント(職場での妊娠・出産などを理由とする不利益取扱いなど)」、30~49歳では「女性の活躍に影響を及ぼす古い考え方や社会通念、慣習・しきたりが残っていること」が最も高くなっています。



[2] SDGsにおいてジェンダー平等が定められていることについて

問 17

SDGsの中にジェンダー平等について定められていることを知っていますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- SDGsにおいてジェンダー平等が定められていることについては、「SDGsについて、聞いたことがない」が64.4%と6割以上を占め最も高く、次いで「SDGsについて、聞いたことはあるが詳しくは知らない」(24.8%)となっています。
- 性別にみると、「SDGsについて、聞いたことはあるが詳しくは知らない」が男性では27.7%と、女性(22.6%)に比べて高くなっています。また、「SDGsについて、聞いたことがない」が女性では67.7%と、男性(60.5%)に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、70歳以上で「SDGsの目標の1つに「ジェンダー平等を実現しよう」が定められていることを知っている」が他の年代に比べ低くなっています。



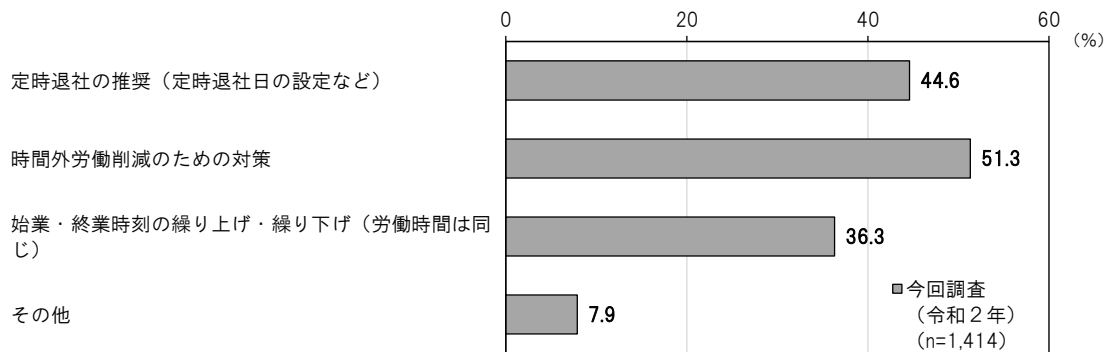
- SDGsの目標の1つに「ジェンダー平等を実現しよう」が定められていることを知っている
- SDGsについて、聞いたことはあるが詳しくは知らない
- SDGsについて、聞いたことがない
- 無回答

[3] 仕事と子育て・介護・家庭生活・地域活動の両立のために、職場や地域で進んでほしい取組み

問 18	あなたは、仕事と子育て・介護・家庭生活・地域活動を両立するために、職場や地域においてどのような取組が進めばいいと思いますか。(1)～(5)それぞれについてお答えください。(※該当するものがあれば、いくつでも○をつけてください)
------	---

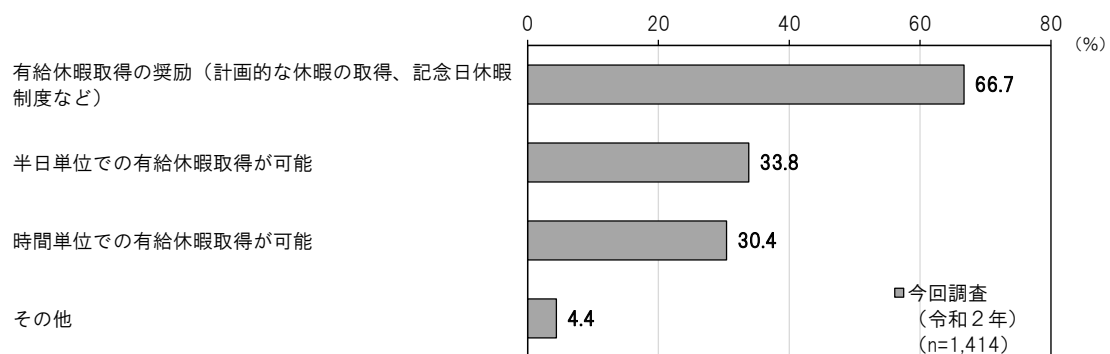
(1) 長時間労働の抑制について

- 長時間労働の抑制については、「時間外労働削減のための対策」が51.3%と半数以上を占め最も高く、次いで「定時退社の推奨（定時退社日の設定など）」(44.6%)、「始業・終業時間の繰り上げ・繰り下げ（労働時間は同じ）」(36.3%)となっています。
- 性別にみると、「始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ（労働時間は同じ）」が女性では 39.5%と、男性（33.4%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「定時退社の推奨（定時退社日の設定など）」が上がる傾向がみられます。また、70 歳以上で「時間外労働削減のための対策」が他の年代に比べ低くなっています。



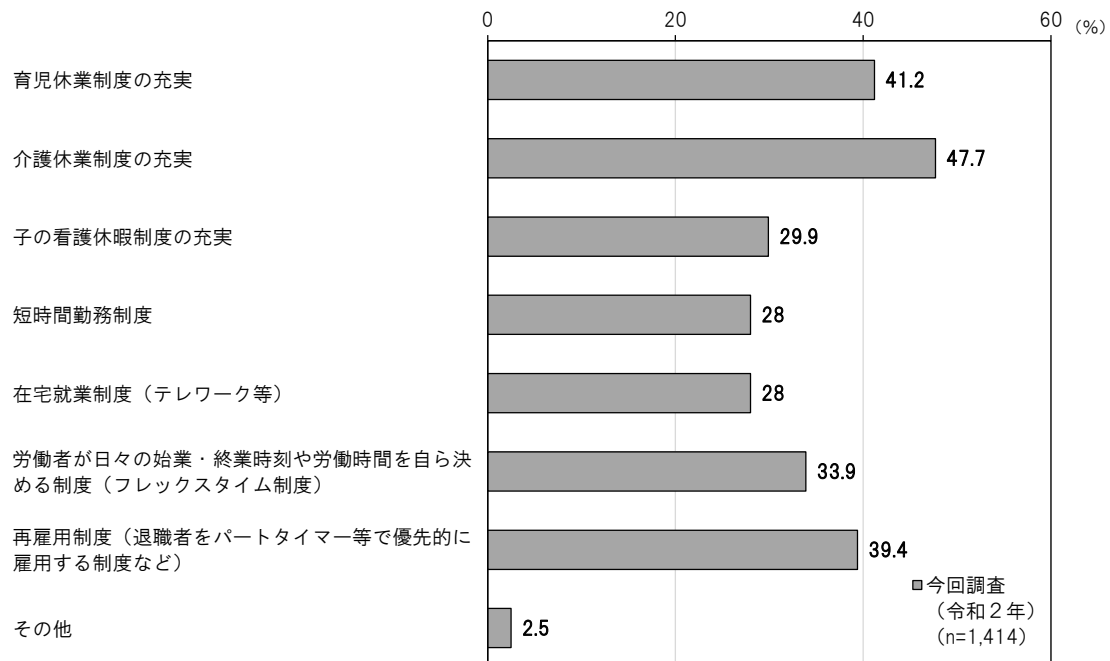
(2) 年次有給休暇の取得促進について

- 「有給休暇取得の奨励（計画的な休暇の取得、記念日休暇制度など）」が 66.7%と6割以上を占め最も高く、次いで「半日単位での有給休暇取得が可能」（33.8%）、「時間単位での有給休暇取得が可能」（30.4%）となっています。
- 性別にみると、「時間単位での有給休暇取得が可能」が女性では 33.5%と、男性（27.5%）に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、年齢が下がるにつれ「有給休暇取得の奨励（計画的な休暇の取得、記念日休暇制度など）」が高くなる傾向がみられます。また、他の年代に比べ、「時間単位での有給休暇取得が可能」が 30～39 歳で高く、70 歳以上で低くなっています。



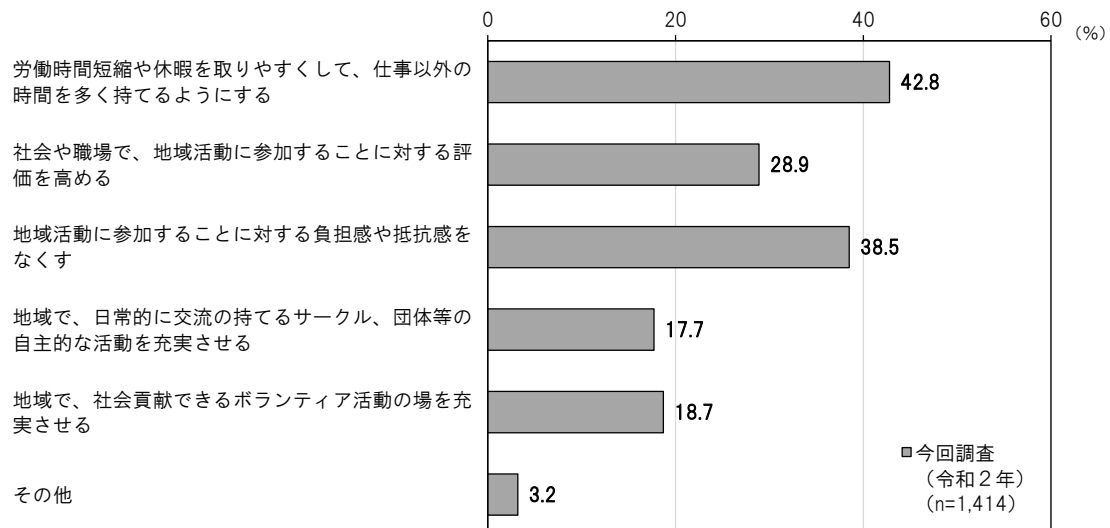
(3) 制度の整備について

- 制度の整備については、「介護休業制度の充実」が47.7%と4割以上を占め最も高く、次いで「育児休業制度の充実」(41.2%)、「再雇用制度(退職者をパートタイマー等で優先的に雇用する制度)」(39.4%)となっています。
- 性別にみると、「介護休業制度の充実」、「子の看護休暇制度の充実」、「短時間勤務制度」で、女性が男性に比べて高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「子の看護休暇制度の充実」が上がる傾向がみられます。また、18~39歳では「育児休業制度の充実」が最も高くなっています。年代で比較すると、18~29歳では「再雇用制度(退職者をパートタイマー等で優先的に雇用する制度)」が低く、「短時間勤務制度」、「在宅就業制度(テレワーク等)」、「労働者が日々の始業・終業時刻や労働時間を自ら決める制度(フレックスタイム制度)」の項目で30~39歳が高く、70歳以上で低くなっています。



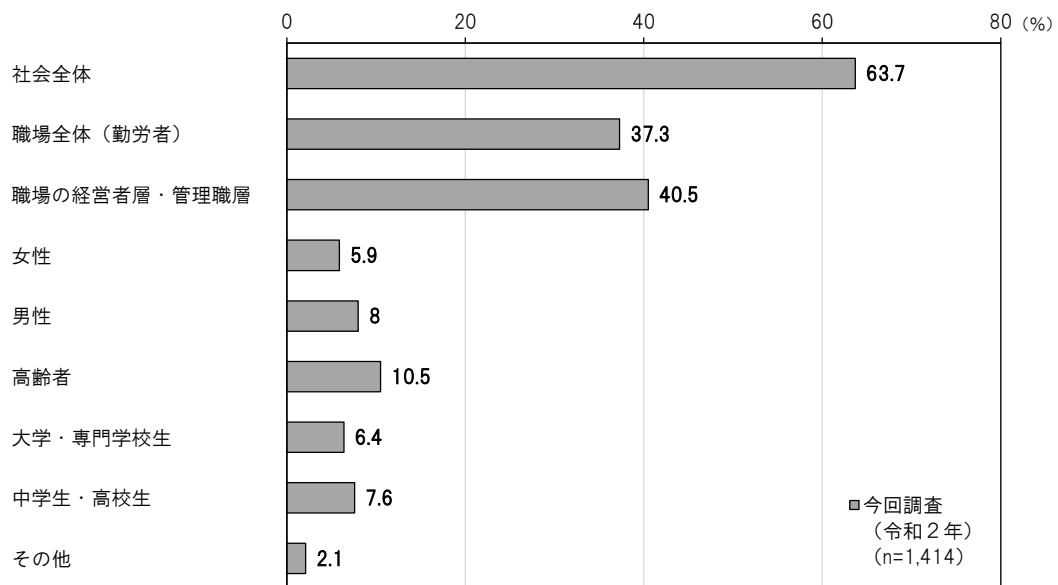
(4) 地域活動への積極的な参加について

- 地域活動への積極的な参加については、「労働時間短縮や休暇を取りやすくして、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が 42.8%と4割以上を占め最も高く、次いで「地域活動に参加することに対する負担感や抵抗感をなくす」(38.5%)、「社会や職場で、地域活動に参加する事ことに対する評価を高める」(28.9%)となっています。
- 性別にみると、「社会や職場で、地域活動に参加することに対する評価を高める」、「地域で、社会貢献できるボランティア活動の場を充実させる」で男性が女性より高く、「地域活動に参加することに対する負担感や抵抗感をなくす」で女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「労働時間短縮や休暇を取りやすくして、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が高くなる傾向がみられます。また、「地域活動に参加することに対する負担感や抵抗感をなくす」について、50～69歳では最も高くなっており、70歳以上では他の年代に比べ低くなっています。



(5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるための、効果的な啓発対象について

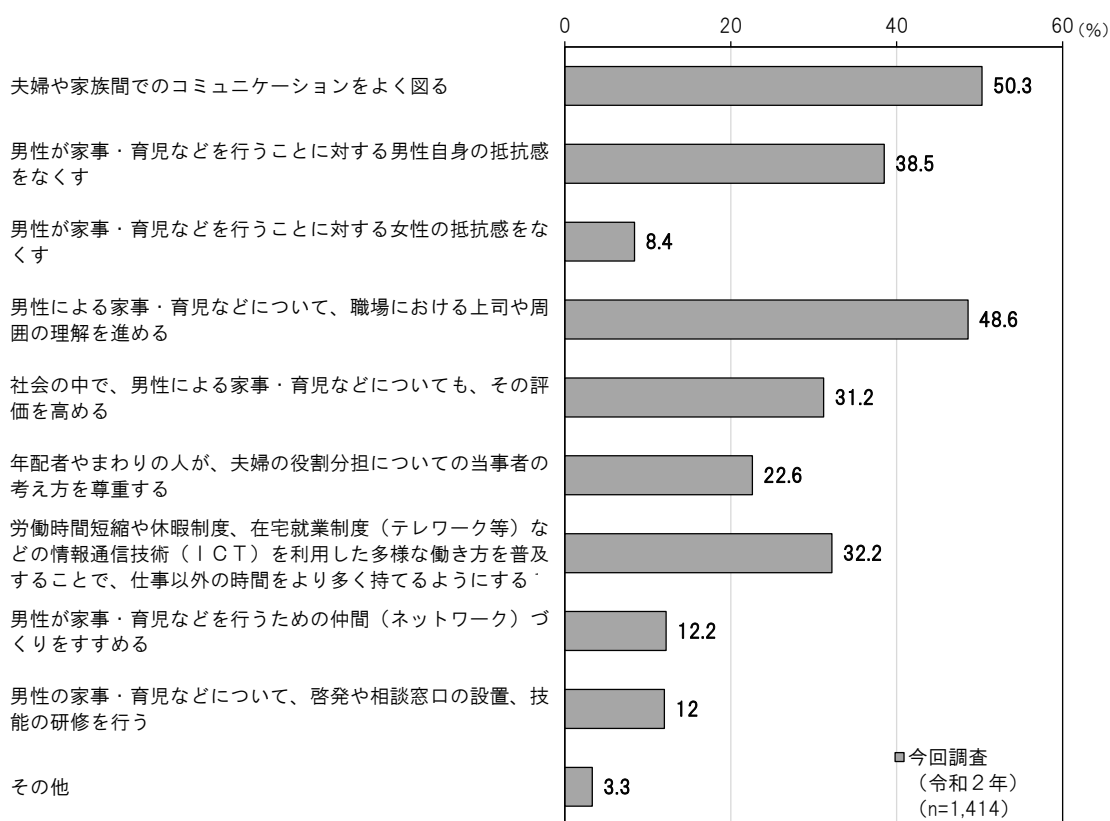
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるための、効果的な啓発対象については、「社会全体」が63.7%と6割以上を占め最も高く、次いで「職場の経営者層・管理職層」(40.5%)、「職場全体（勤労者）」(37.3%)となっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「職場全体（勤労者）」が高くなる傾向がみられます。また、70歳以上で「職場の経営者層・管理職層」が他の年代に比べ低くなっています。



[4] 男性が家事・子育て・介護・地域活動を積極的に行うために、特に必要だと思うこと

問 19	今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動を積極的に行っていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（※3つまで選んでください）
------	---

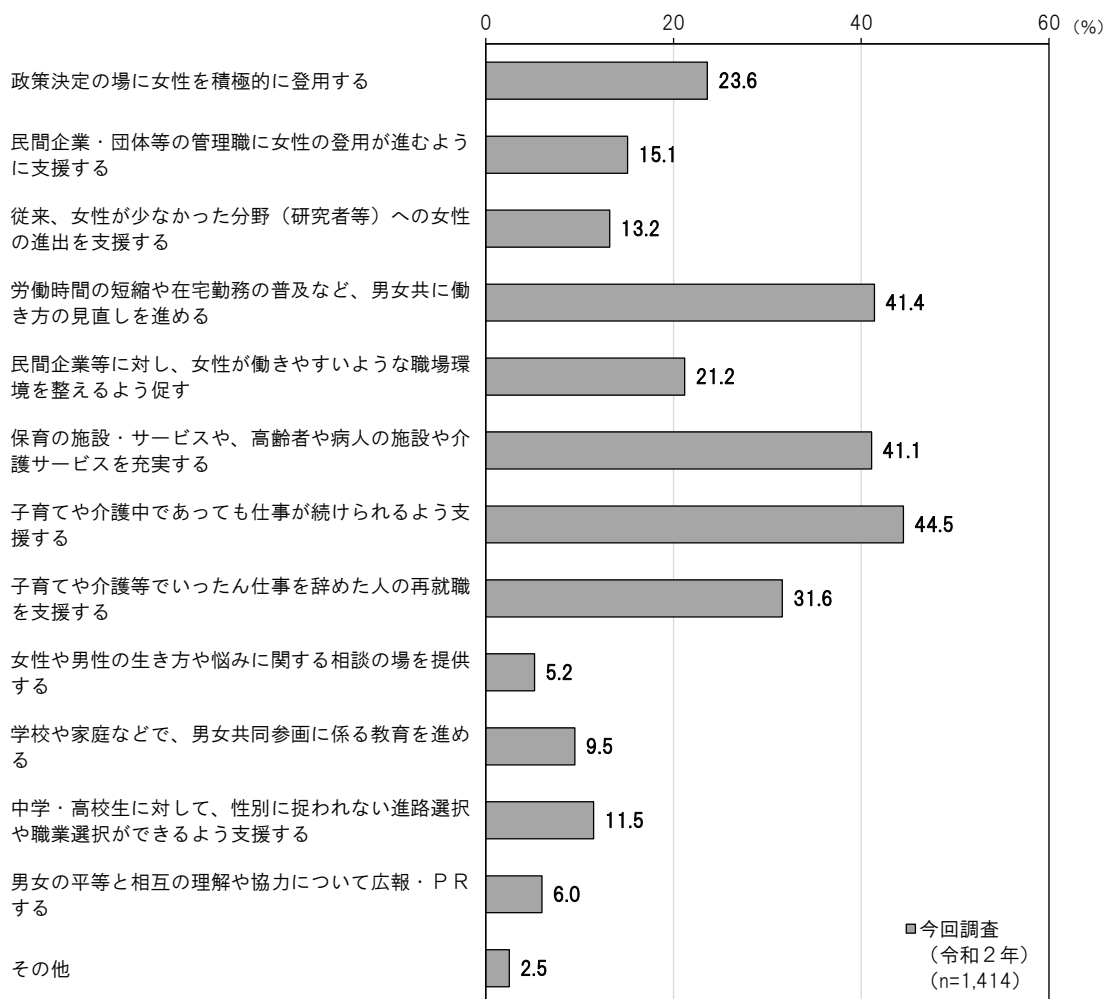
- 男性が家事・子育て・介護・地域活動を積極的に行うために、特に必要だと思うことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が 50.3%と半数以上を占め最も高く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」(48.6%)、「男性が家事・育児を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」(38.5%)となっています。
- 性別にみると、女性では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」が 50.3%と最も高くなっています。また、「男性が家事・育児を行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する」で女性が男性より高く、「社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める」で男性が女性より高くなっています。
- 年代別にみると、18～59 歳では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」が最も高くなっており、60 歳以上では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、70 歳以上で「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める」が低く、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する」が高くなっています。



[5] 男女共同参画社会の実現のために、今後行政が特に力を入れていくべきこと

問 20 あなたは、男女共同参画社会の実現を図るために、今後行政が特に力を入れていくべきことは何だと思えますか。(※3つまで選んでください)

- 男女共同参画社会の実現のために、今後行政が特に力を入れていくべきことについては、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 44.5%と4割以上を占め最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」(41.4%)、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(41.1%)となっています。
- 性別にみると、女性では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が 44.9%と最も高くなっています。
- 年代別にみると、18～39 歳では「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」、40～69 歳では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」、60 歳以上では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、18～29 歳では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が低く、70 歳以上では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が低くなっています。



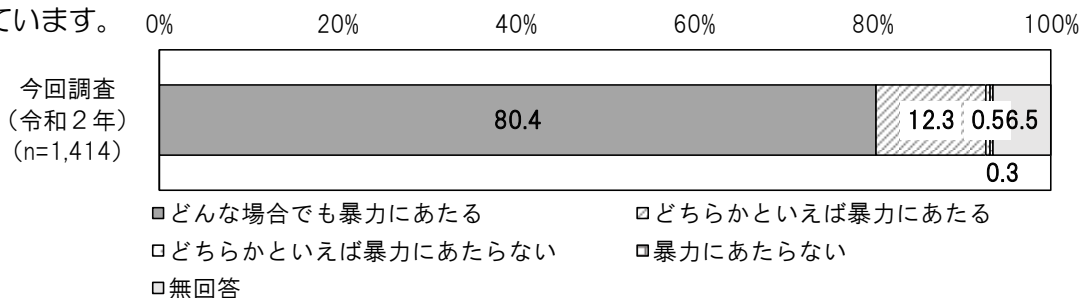
4. DV（配偶者等からの暴力）について

[1] 配偶者やパートナー、交際相手の間で行われる暴力（DV）に対する考えとその経験について

問 21 (1)	あなたは、次のようなことが配偶者やパートナー、交際相手の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。ア～ケそれぞれについてお答えください。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。
-------------	---

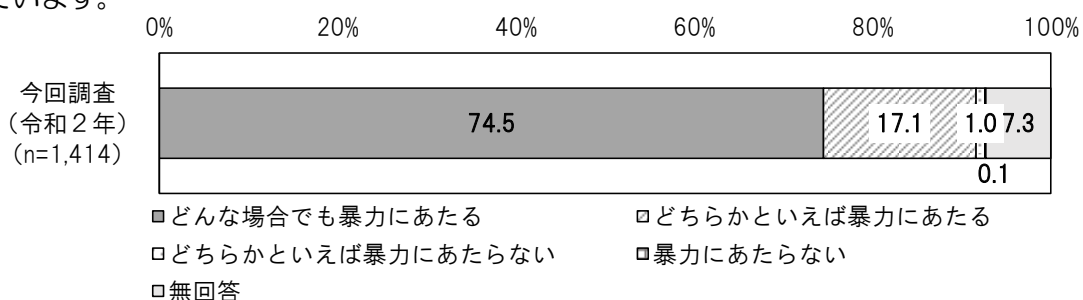
ア 平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなくる

- 平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなくることに對する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が80.4%と8割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は92.7%と、ほとんどの人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が高くなる傾向が見られます。また、70歳以上で『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が他の年代に比べ低くなっています。



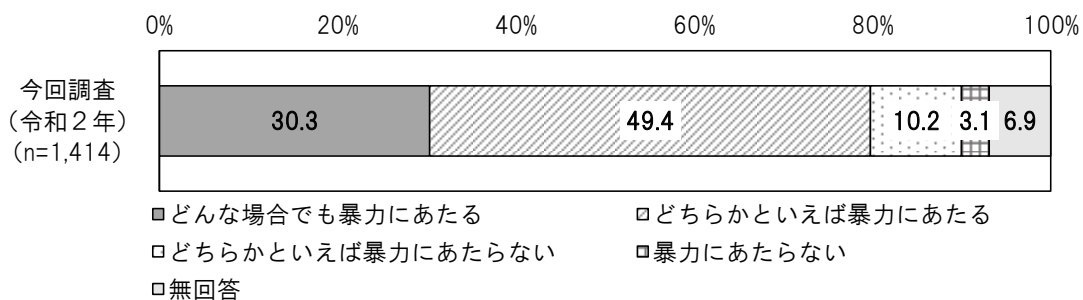
イ なくるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす

- なくるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどすことに對する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が74.5%と7割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は91.6%と、ほとんどの人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が高くなる傾向が見られます。また、70歳以上で『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が他の年代に比べ低くなっています。



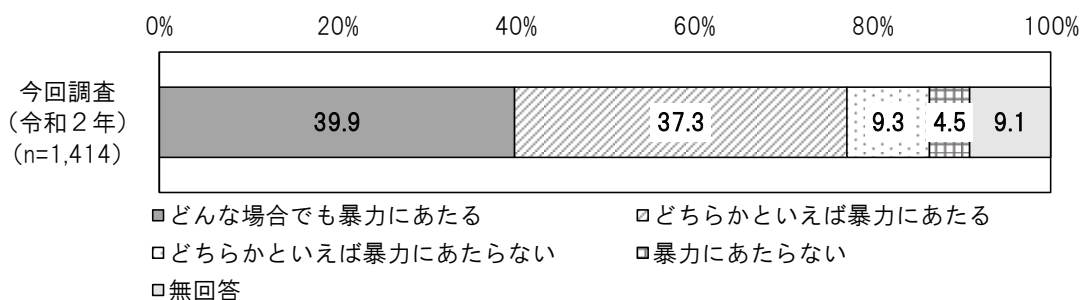
ウ 大声でどなる

- 大声でどなることに対する考えについては、「どちらかといえば暴力にあたる」が49.4%と5割近くを占め最も高くなっており、「どんな場合でも暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は79.7%と、8割近くの人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性で37.4%と男性（21.8%）より高くなっている一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で56.4%と女性（45.1%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上で『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が低く、50～59歳で「どんな場合でも暴力にあたる」が高くなっています。



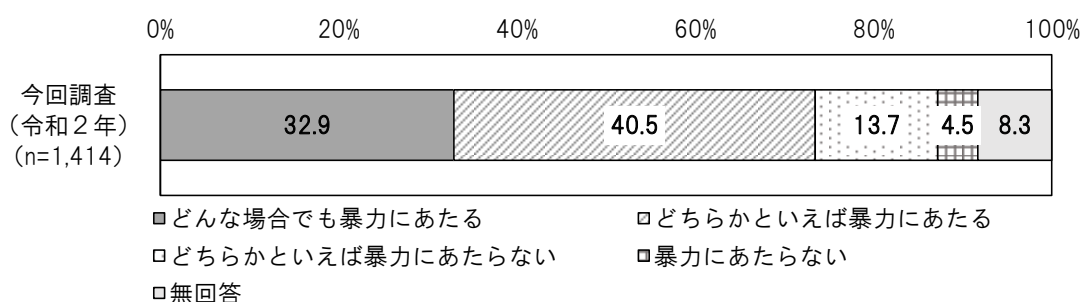
エ 家族や友人との関わりを持たせない

- 家族や友人との関わりを持たせないことに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が39.9%と4割近くを占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は77.2%と、7割以上の人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性で45.1%と最も高くなっている一方で、男性では「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で40.7%と最も高くなっています。また、『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が女性で81.7%と男性（73.6%）より高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が高くなる傾向が見られます。また、18～59歳では「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高く、60歳以上では「どちらかといえば暴力にあたる」が最も高くなっています。



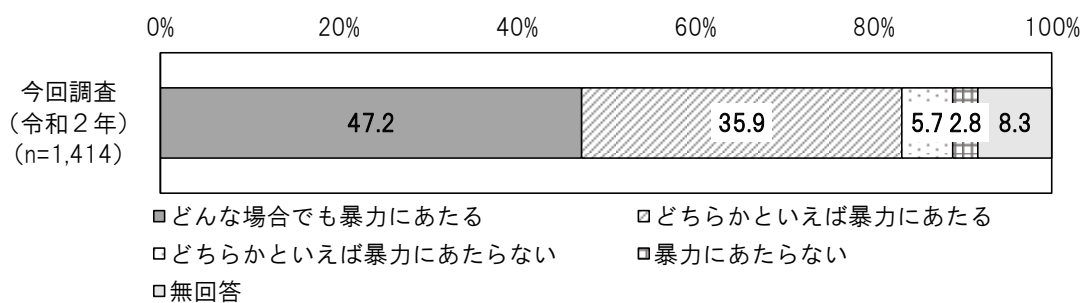
オ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

- 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視することに対する考えについては、「どちらかといえば暴力にあたる」が40.5%と4割以上を占め最も高くなっており、「どんな場合でも暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は73.4%と、7割以上の人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別にみると、『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が女性で77.6%と男性（68.2%）より高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が高くなる傾向が見られます。また、50～59歳では「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



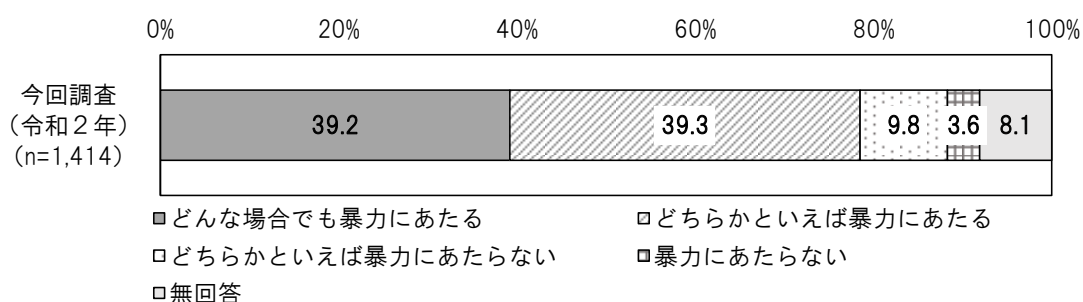
カ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

- 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限することに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が47.2%と4割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は83.1%と、8割以上の人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性では51.3%と男性（42.0%）より高くなっている一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で39.5%と女性（34.3%）より高くなっています。
- 年代別にみると、60歳以上では「どちらかといえば暴力にあたる」が最も高くなっています。また、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が他の年代に比べ、低くなっています。



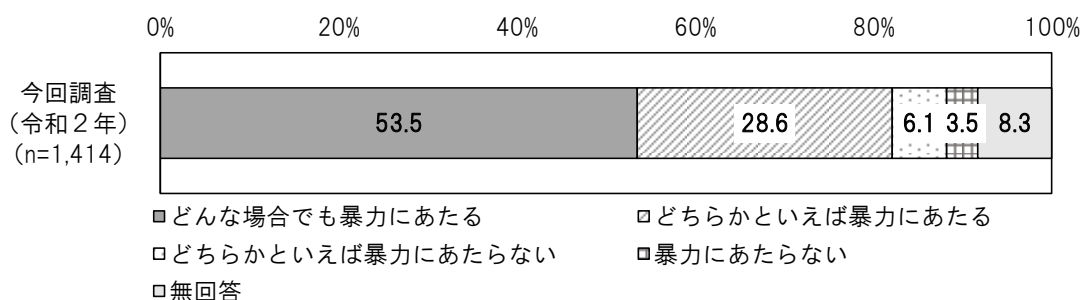
キ 何を言っても長期間無視し続ける

- 何を言っても長期間無視し続けることに対する考えについては、「どちらかといえば暴力にあたる」が39.3%と4割近くを占め最も高くなっており、「どんな場合でも暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は78.5%と、8割近くの人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性では43.2%と最も高くなっている一方で、男性では「どちらかといえば暴力にあたる」が44.1%と最も高くなっています。
- 年代別にみると、60歳以上では「どちらかといえば暴力にあたる」が最も高くなっています。また、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が他の年代に比べ、低くなっています。



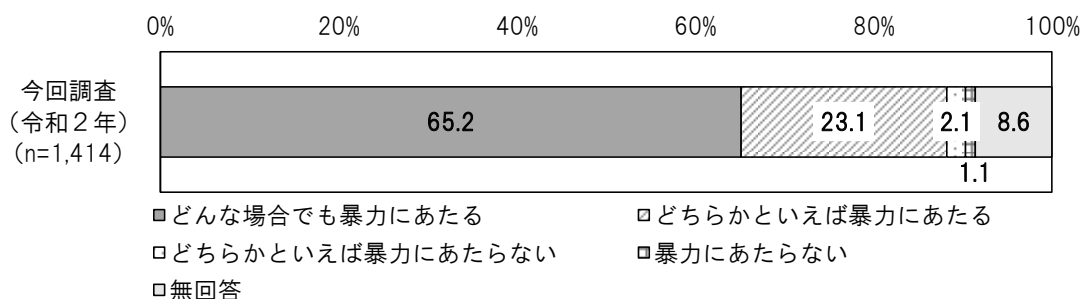
ク 家計に必要な生活費を渡さない

- 家計に必要な生活費を渡さないことに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が53.5%と5割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は82.1%と、8割以上の方が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性では59.1%と男性（45.9%）より高くなっている一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で34.6%と女性（25.2%）より高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「どんな場合でも暴力にあたる」が高くなる傾向が見られます。また、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が他の年代に比べ、低くなっています。



ケ 嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない

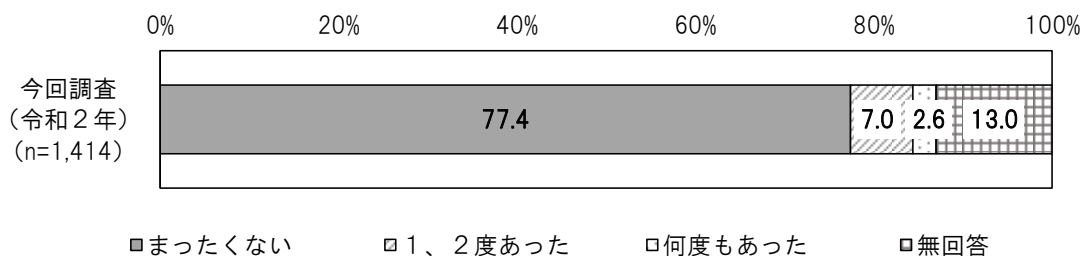
- 嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しないことに対する考えについては、「どんな場合でも暴力にあたる」が65.2%と6割以上を占め最も高くなっており、「どちらかといえば暴力にあたる」を合わせた『暴力にあたる』は88.3%と、9割近くの人が暴力にあたると考えている結果となっています。
- 性別にみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が女性では71.7%と男性（56.8%）より高くなっている一方で、「どちらかといえば暴力にあたる」が男性で32.0%と女性（17.5%）より高くなっています。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「どんな場合でも暴力にあたる」が高くなり、年代が上がるにつれ「どちらかといえば暴力にあたる」が高くなる傾向が見られます。また、70歳以上では『暴力にあたる』（「どんな場合でも暴力にあたる」+「どちらかといえば暴力にあたる」）が他の年代に比べ、低くなっています。



問 21	配偶者やパートナー、交際相手から受けたことがありますか。ア～ケそれぞれについて (2) お答えください。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。
------	---

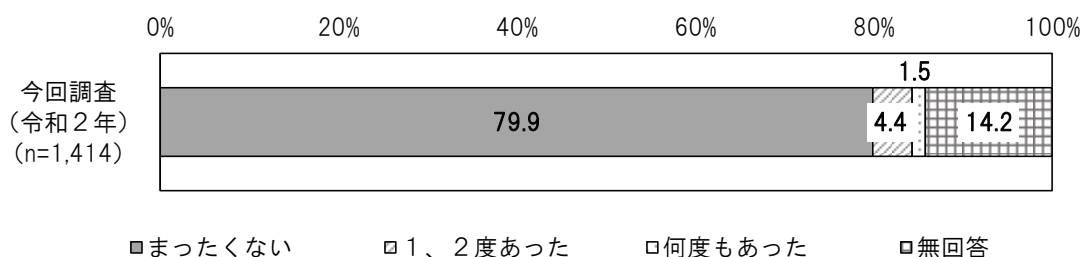
ア 平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなくる

- 平手で打たれる、足でけられる、身体を傷つける可能性のある物でなくられることに対する経験については、「まったくない」が77.4%と7割以上を占め最も高くなっています。一方で、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『経験がある』は9.6%と、1割近くの人が経験がある結果となっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれ「まったくない」が高くなる傾向が見られます。また、70歳以上で「まったくない」が他の年代に比べ低くなっています。



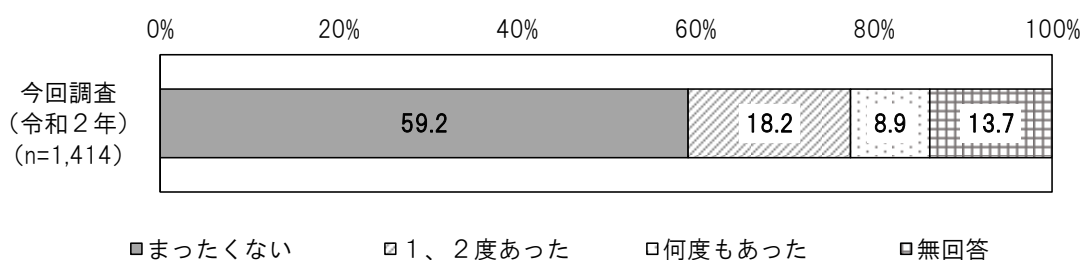
イ なくるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす

- なくるふりをしておどされる、刃物などを突きつけておどされることに対する経験については、「まったくない」が79.9%と8割以上を占め最も高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、70歳以上で「まったくない」が他の年代に比べ低くなっています。



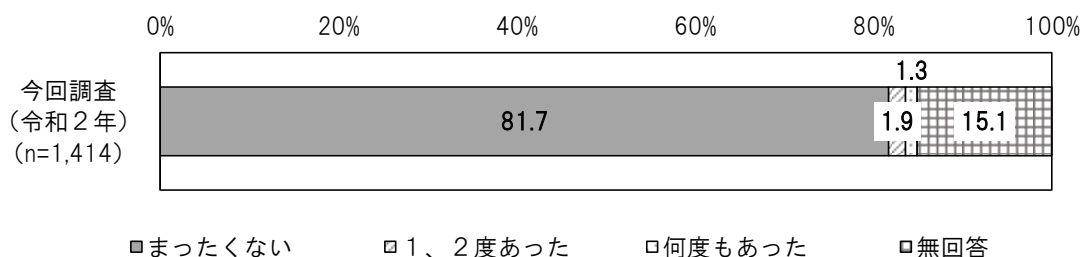
ウ 大声でどなる

- 大声でどなられることに対する経験については、「まったくない」が59.2%と6割近くを占め最も高くなっています。一方で、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『経験がある』は27.1%と、2割以上の方が経験がある結果となっています。
- 性別にみると、「まったくない」が男性で64.1%と、女性（57.2%）より高くなっています。また、『経験がある』（「1、2度あった」+「何度もあった」）は女性で30.8%と、男性（22.0%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、「まったくない」が18～29歳で高く、70歳以上で低くなっています。また、『経験がある』（「1、2度あった」+「何度もあった」）が18～29歳で低くなっています。



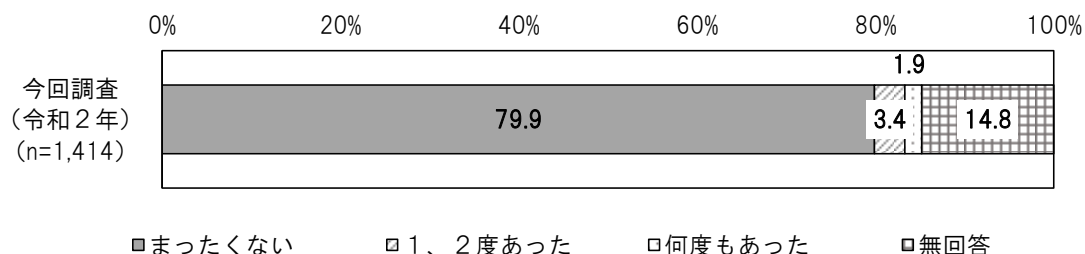
エ 家族や友人との関わりを持たせない

- 家族や友人との関わりを持たせてもらえないことに対する経験については、「まったくない」が81.7%と8割以上を占め最も高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、70歳以上で「まったくない」が低くなっています。



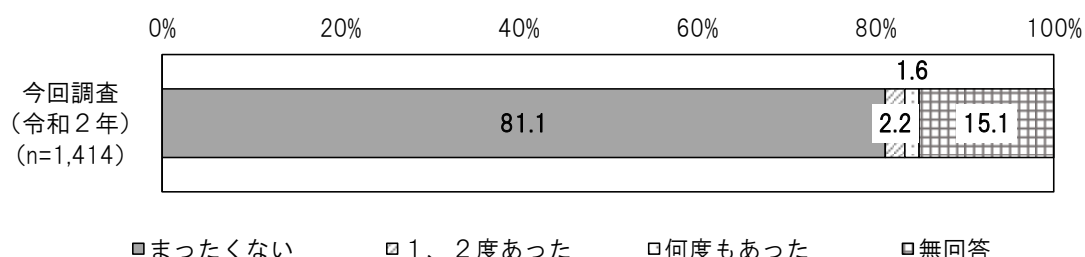
オ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

- 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視されることに対する経験については、「まったくくない」が79.9%と8割近くを占め最も高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、「まったくくない」が70歳以上で低くなっています。



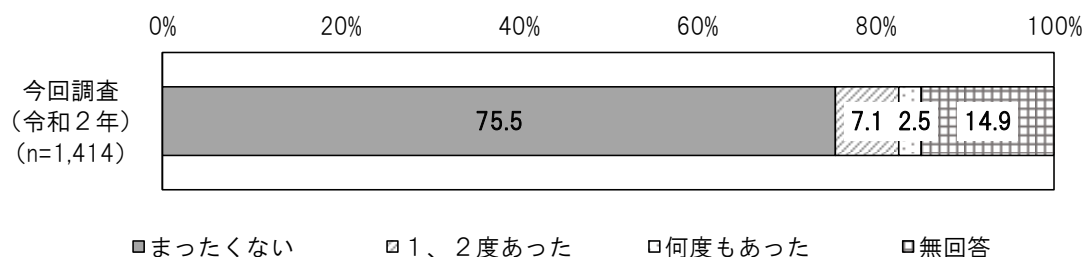
カ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

- 職場に行くことを妨害されたり、外出先を制限されることに対する経験については、「まったくくない」が81.1%と8割以上を占め最も高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、「まったくくない」が70歳以上で低くなっています。



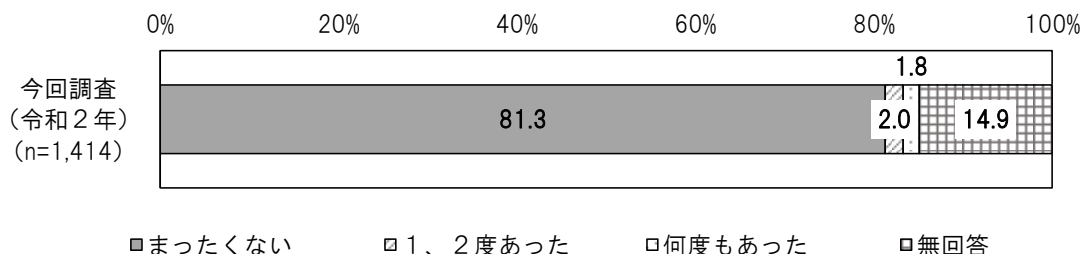
キ 何を言っても長期間無視し続ける

- 何を言っても長期間無視し続けられることに対する経験については、「まったくくない」が75.5%と7割以上を占め最も高くなっています。一方で、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『経験がある』は9.6%と、1割近くの方が経験がある結果となっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、「まったくくない」が18~29歳で高く、70歳以上で低くなっています。



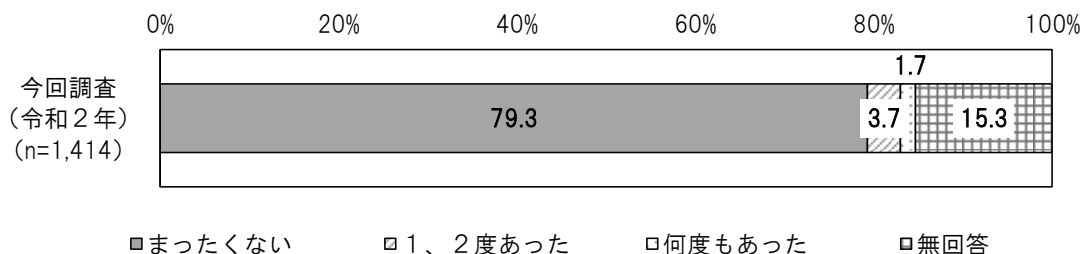
ク 家計に必要な生活費を渡さない

- 家計に必要な生活費を渡されないことに対する経験については、「まったくない」が81.3%と8割以上を占め最も高くなっています。
- 性別による大きな差異はみられません。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、「まったくない」が70歳以上で低くなっています。



ケ 嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない

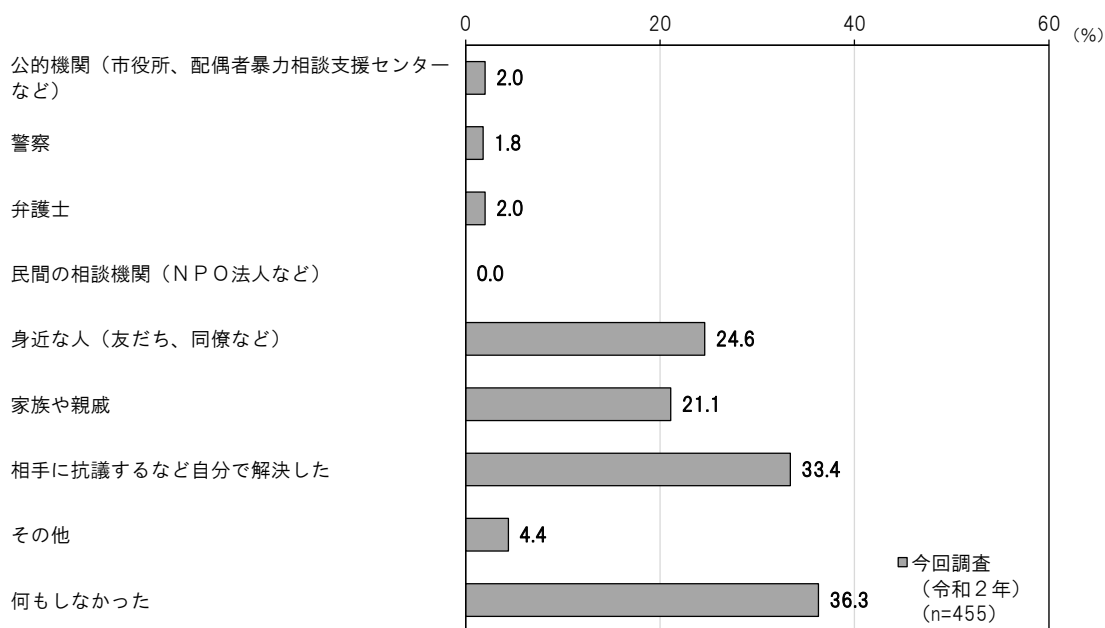
- 嫌がっているのに性的な行為を強要される、避妊に協力してもらえないことに対する経験については、「まったくない」が79.3%と8割近くを占め最も高くなっています。
- 性別にみると、『経験がある』（「1、2度あった」+「何度もあった」）が女性で7.7%と、男性（2.5%）より高くなっています。
- 年代別にみると、他の年代に比べ、「まったくない」が70歳以上で低くなっています。



[2] DVへの対応について

問 22	問 21 (2) で「1、2度あった」「何度もあった」に1つでも○がついた方にお聞きします。あなたがそのような行為を受けた時、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
------	---

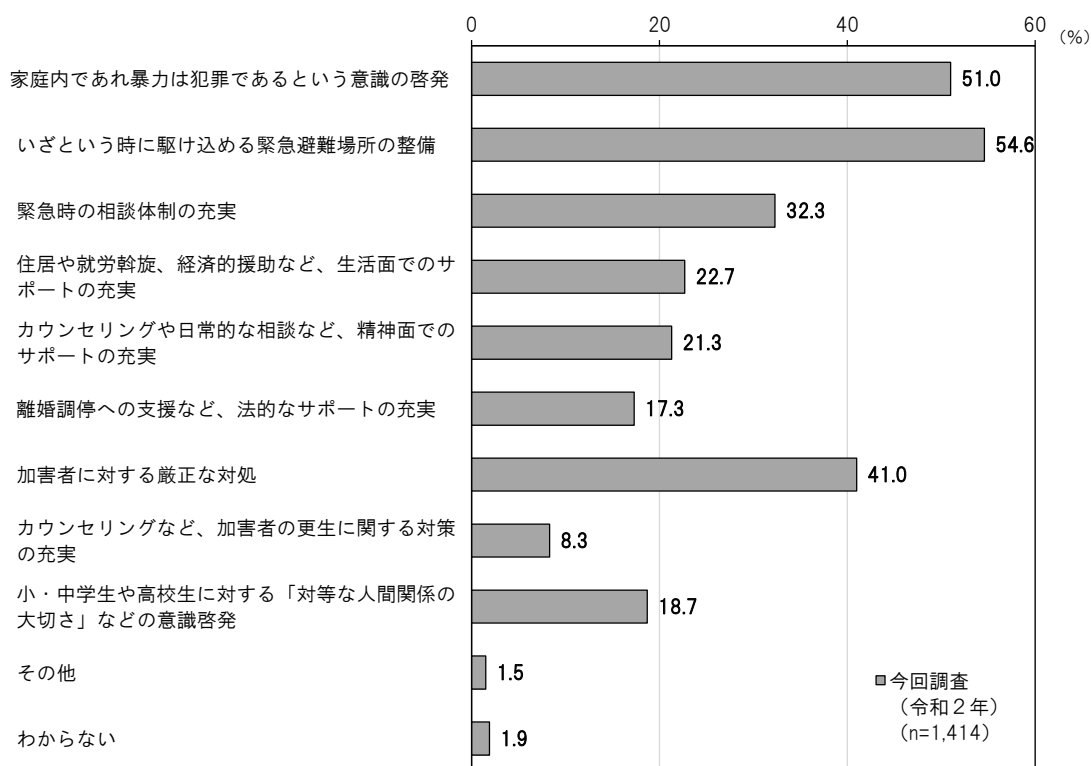
- DVへの対応については、「何もしなかった」が36.3%と3割以上を占め最も高く、次いで「相手に抗議するなど自分で解決した」(33.4%)、「身近な人(友だち、同僚など)」(24.6%)となっています。
- 性別にみると、男性では「何もしなかった」が51.0%と最も高く、女性では「相手に抗議するなど自分で解決した」が35.3%で最も高くなっています。また、「身近な人(友だち、同僚など)」、「家族や親戚」で女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、18～29歳では「身近な人(友だち、同僚など)」、30～39歳と50～59歳では「相手に抗議するなど自分で解決した」、40～49歳では「家族や親戚」、60歳以上では「何もしなかった」が最も高くなっています。



[3] DVに対する対策や行政からの支援として特に重要だと思う取り組み

問 23	DVに対する対策や行政からの支援として特に重要だと思う取り組みは何だと思えますか。(※3つまで選んでください)
------	---

- DVに対する対策や行政からの支援として特に重要だと思う取り組みについては、「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」が 54.6%と最も高く、次いで「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」(51.0%)、「加害者に対する厳正な対処」(41.0%)となっています。
- 性別にみると、男性では「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」が 53.2%と最も高く、女性では「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」が 56.8%と最も高くなっています。また、「緊急時の相談体制の充実」、「加害者に対する厳正な対処」で、男性が女性より高くなっており、「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」、「住居や就労斡旋、経済的援助など、生活面でのサポートの充実」、「離婚調停への支援など、法的なサポートの充実」で、女性が男性より高くなっています。
- 年代別にみると、60 歳以上では「家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発」が最も高くなっています。また、他の年代に比べ、70 歳以上では「いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備」、「加害者に対する厳正な対処」が低くなっています。



5. 自由記述

問 24	日ごろから人権について感じていること、また、人権が尊重され、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりを実現するために、あなたができると思うことなど、どのようなことでもかまいませんので、下欄に自由にお書きください。
------	--

- 自由意見については、533 件の意見が寄せられ、意見内容としては下表のような内容となっています。(1つの自由意見で複数に分類されている意見があるため件数の合計は 643 件となっています。)

自由意見カテゴリー	件数
(1) 人権意識・問題に関して	273 件
(2) 人権教育・啓発に関して	87 件
(3) 男女共同参画に関して	53 件
(4) 子どもに関して	47 件
(5) 人権に関する相談・サポートに関して	45 件
(6) 高齢者に関して	35 件
(7) 外国人に関して	24 件
(8) 障害のある人に関して	20 件
(9) 同和問題に関して	16 件
(10) 性的少数者に関して	11 件
(11) 職場・働き方に関して	9 件
(12) アンケートに関して	5 件
(13) その他	18 件
合計	643 件

人権・男女共同参画に関するアンケート

～ご協力のお願～

日頃から市政の推進にご協力いただき、ありがとうございます。

この調査は、人権啓発・男女共同参画を進めていく上での基礎資料として利用するためのもので、今後の人権尊重のまちづくり、また、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりへ向けた取組をますます充実・発展させていくためのアンケートです。

みなさまには、お忙しいところ誠に恐れ入りますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

追伸：ご記入のお礼として、天文科学館の招待券を同封しております。是非とも一度お出かけいただければ幸いです。

2020年（令和2年）2月

明 石 市

《回答の記入にあたって》

- ・このアンケート調査は、18歳以上の市民の皆さま（2020年2月1日時点）の中から、無作為に3,000名の方を選び、調査票をお送りしています。
- ・あて名の方、ご本人がお答えください。
- ・ご記入いただきました後、調査票を折りたたみ、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、2020年2月20日（木）までに投函してください。
- ・名前、住所等をご記入いただく必要はありません。回答内容から個人が特定されることはありません。
- ・ご記入いただきましたご意見に対し、個別に回答は行いませんので、ご了承ください。
- ・この調査票につきまして、ご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。



【お問い合わせ先】

明石市市民協働推進室人権推進課

電 話：078-918-5024

FAX：078-918-5131

あなたの人権意識についてお聞きします。

【問1】あなたは、「人権」をどのくらい身近な問題として感じていますか。

あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. ひじょうに身近に感じる | 2. 身近に感じる |
| 3. どちらとも言えない | 4. あまり身近に感じない |
| 5. まったく身近に感じない | 6. わからない |

【問2】子どもに関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

(※3つまで選んでください)

- | |
|--|
| 1. 子ども同士が仲間はずれや無視、暴力などのいじめを行うこと |
| 2. いじめをしている人やいじめられている人を見て見ぬふりをする事 |
| 3. 児童や生徒が教師から体罰を受けること |
| 4. 親（養育者）が子どもにしつけのつもりで体罰を与えること |
| 5. 子どもに心理的な虐待（子どもへの暴言・無視・親のDVが子どもの面前で行われることなど）を加えること |
| 6. 子育てを放棄すること |
| 7. 子どもが自身の進学先、就職先の選択について意見しても、大人に無視されること |
| 8. 親の事情などによって、子どもが無国籍や無戸籍になること |
| 9. 子どもがビデオ、インターネット（※）を利用した性情報にさらされること |
| 10. 子どもがインターネットにより犯罪に巻き込まれること |
| 11. 児童売春や児童ポルノの対象として商品化されること |
| 12. その他（ ） |
| 13. 特にない |
| 14. わからない |

※インターネットは、SNS・掲示板・ホームページ・ブログなど（以下の質問も同じ）

【問3】高齢者に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

(※3つまで選んでください)

1. 就職が困難であったり、雇用と待遇が十分保障されていなかったりすること
2. 悪質商法や詐欺などによる被害が多いこと
3. 高齢者だけでは賃貸住宅への入居が困難なこと
4. 道路や建物に段差があったり、エレベーターが設置されていなかったりなど、高齢者が暮らしやすい生活環境になっていないこと
5. 病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと
6. 居宅での介護が十分でないこと
7. 高齢者の意見や行動が尊重されないこと
8. 居宅や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
9. 家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること
10. 情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
11. 認知症の高齢者の人権が尊重されないこと
12. その他 ()
13. 特にない
14. わからない

【問4】障害のある人に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。

(※3つまで選んでください)

1. 働く場所や機会が少なく、雇用と待遇が十分に保障されていないこと
2. 宿泊施設や公共交通機関の利用、店舗等への入店を拒否されること
3. 賃貸住宅への入居を拒否されること
4. 職場や学校で不利な扱いを受けること
5. 道路や建物に段差があったり、エレベーターが設置されていなかったりなど、障害のある人が暮らしやすい生活環境になっていないこと
6. スポーツや文化活動、地域活動に気軽に参加できないこと
7. 病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと
8. 居宅での介護が十分でないこと
9. 地域でグループホームなどの障害のある人の施設をつくろうとすると、周辺住民が反対すること
10. 障害のある人の意見や行動が尊重されないこと
11. 情報が入手しにくい、あるいは情報のやり取りがスムーズにできないこと
12. 発達障害など多様化する障害が理解されにくいこと
13. その他 ()
14. 特にない
15. わからない

【問5】 異性愛、同性愛などといった性的指向に関する事で、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(※3つまで選んでください)

1. 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること
2. 就職や職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な言動をされること
4. 賃貸住宅などへの入居を拒否されること
5. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. まわりの人に自分の性的指向を話せる環境でないこと
8. その他 ()
9. 特にない
10. わからない

【問6】 生物学的な性とところの性が一致しないトランスジェンダーに関する事で、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(※3つまで選んでください)

1. 職場、学校などで嫌がらせやいじめを受けること
2. 就職や職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な言動をされること
4. 賃貸住宅などへの入居を拒否されること
5. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. まわりの人に自分がトランスジェンダーであることを話せる環境でないこと
8. その他 ()
9. 特にない
10. わからない

【問7】 同和問題（部落差別）に関する事で、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。(※3つまで選んでください)

1. 結婚問題で周囲が反対すること
2. 就職や職場で不利な扱いをすること
3. 人権上の配慮を欠いた差別的言動をすること
4. 生活が貧困で、居住環境が劣悪であること
5. 身元調査をすること
6. 同和行政のねらいが理解されず、周囲の市民がねたみ意識で見ること
7. インターネット上に差別的な書き込みがあること
8. 旧同和地区への居住を敬遠すること
9. すでに差別はなくなっている（同和問題はなくなっている）
10. その他 ()
11. 特にない
12. わからない

【問8】あなたは、旧同和地区や部落差別について、どう思いますか。ア～エそれぞれについて、①～③のうち、ご自身のお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

		そう思う ①	そう思わない ②	わからない ③
ア	部落差別は、いまだにあると思う			
イ	旧同和地区には住みたくない			
ウ	身内（又は本人）の結婚相手が旧同和地区の人で、それを理由に家族や親族が反対するのはおかしい			
エ	部落差別はそっとしていれば自然になくなる			

【問9】部落差別などの同和問題が生じる原因や背景として、あなたが一番思い当たるのは次のどれですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から教えられる偏見・差別意識 2. 地域の人から伝えられる偏見・差別意識 3. 職場などで伝えられる偏見・差別意識 4. 社会全体に残る差別意識 5. 個人の理解不足 6. 学校での人権教育の不十分さ 7. 行政の人権問題の啓発の不十分さ 8. その他（ ） 9. 特にない | <ul style="list-style-type: none"> 10. わからない |
|--|---|

【問10】日本に居住している外国人に関することで、人権上、特に問題があると思うのはどのようなことですか。（※3つまで選んでください）

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 学校での対応や支援が不十分であること 2. 就職や職場で不利な扱いを受けること 3. 住宅の申し込みや入居で不利な扱いを受けること 4. 年金など社会保障制度で不利な扱いを受けること 5. 文化や生活風習の違いが受け入れられなかったり、その違いから嫌がらせを受けたりすること 6. 病院や施設などで、外国語の表記などの対応が不十分であること 7. 投票権が制限されるなど、政治に意見が十分反映されないこと 8. 本名を名乗りにくく、通称名を使うこと 9. ヘイトスピーチ（外国出身者に対する不当な差別的言動）による嫌がらせを受けること 10. 自治会等地域社会に受け入れられないこと 11. 日本語がよくわからないことを理由に無視されること 12. 知らない人からじろじろ見られること 13. その他（ ） 14. 特にない | <ul style="list-style-type: none"> 15. わからない |
|--|---|

あなたご自身の考え方や行動、体験などについてお聞きします。

【問11】 次のア～クそれぞれについて、①～④のうち、ご自身のお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

		そう思う ①	そう思う どちらかといえば ②	そう思わない どちらかといえば ③	そう思わない ④
ア	「男は仕事、女は家庭」という考えに賛成である				
イ	人権は人が幸せに暮らしていく上で大切なものである				
ウ	差別をすることは、人間として最も恥すべき行為である				
エ	社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある				
オ	差別の原因は、差別された人の側にもある				
カ	「みんな同じがよい」という考え方が一人ひとりの個性や違いを排除することにつながる				
キ	人権を強調するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくない				
ク	いかなる差別も、完全になくすことはむずかしい				

【問12】 あなたはこれまでに、学校の授業や職場の研修、その他の講演会などにおいて、人権や差別問題について学習したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| 1. 学校の授業で学習したことがある | 2. 職場の研修で学習したことがある |
| 3. 学校の授業や職場の研修以外の講演会などで学習したことがある | |
| 4. 学習したことがない | |
- ▶ 問14へお進みください

▶ 【問13】 (問12)で「1」、「2」、「3」のいずれかを回答された方にお聞きします。

その学習により、どのような感想を持ちましたか。

ご自身のお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 人権の大切さがよくわかった | 2. 人権侵害（差別）の現実がよくわかった |
| 3. 差別は許せないと思う気持ちが強まった | 4. 話が難しくてよくわからなかった |
| 5. 自分にはあまり関係のない話だと思った | 6. 建て前的な話でしんどかった |
| 7. その他（ | ） |

【問14】市立厚生館についてお聞きします。次のア～カそれぞれについて、①～④のうち、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

		よく知っている ①	少しは知っている ②	聞いたことはある ③	知らない ④
ア	「市立厚生館」という施設について				
イ	「教養文化事業」として書道や手芸教室などを開催している				
ウ	「健康増進事業」として体操などの教室を開催している				
エ	「地域交流促進事業」として、厚生館単独や、自治会・子供会などと連携して様々な事業を行っている				
オ	人権に関する様々な講演会や研修会を行っている				
カ	「こども食堂」をはじめとする支援事業を行っている				

【問15】(問14)のアで「1」、「2」と回答された方にお聞きします。次のア～カそれぞれについて、①～④のうち、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

		そう思う ①	そう思う ②	どちらかといえば そう思わない ③	どちらかといえば そう思わない ④
ア	「市立厚生館」という名称は適当である				
イ	厚生館主催の各種教室、講座及びイベントの内容は、適切である				
ウ	厚生館が、地域交流の場として活用されている				
エ	厚生館が、人権に関する問題をはじめ、様々な相談の窓口となっている				
オ	厚生館で開催する人権に関する様々な講演会や研修会は、適切である				
カ	地域にとって、厚生館は必要なものである				

【問18】あなたは、仕事と子育て・介護・家庭生活・地域活動を両立するために、職場や地域においてどのような取組が進めばいいと思いますか。（1）～（5）それぞれについてお答えください。（※該当するものがあれば、いくつでも○をつけてください）

(1) 長時間労働の抑制について

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. 定時退社の推奨（定時退社日の設定など） | |
| 2. 時間外労働削減のための対策 | |
| 3. 始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ（労働時間は同じ） | |
| 4. その他（ | ） |

(2) 年次有給休暇の取得促進について

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1. 有給休暇取得の奨励（計画的な休暇の取得、記念日休暇制度など） | |
| 2. 半日単位での有給休暇取得が可能 | 3. 時間単位での有給休暇取得が可能 |
| 4. その他（ | ） |

(3) 制度の整備について

- | | |
|--|--------------|
| 1. 育児休業制度の充実 | 2. 介護休業制度の充実 |
| 3. 子の看護休暇制度の充実 | 4. 短時間勤務制度 |
| 5. 在宅就業制度（テレワーク等） | |
| 6. 労働者が日々の始業・終業時刻や労働時間を自ら決める制度（フレックスタイム制度） | |
| 7. 再雇用制度（退職者をパートタイマー等で優先的に雇用する制度など） | |
| 8. その他（ | ） |

(4) 地域活動への積極的な参加について

- | | |
|---|---|
| 1. 労働時間短縮や休暇を取りやすくして、仕事以外の時間を多く持てるようにする | |
| 2. 社会や職場で、地域活動に参加することに対する評価を高める | |
| 3. 地域活動に参加することに対する負担感や抵抗感をなくす | |
| 4. 地域で、日常的に交流の持てるサークル、団体等の自主的な活動を充実させる | |
| 5. 地域で、社会貢献できるボランティア活動の場を充実させる | |
| 6. その他（ | ） |

(5) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるための、効果的な啓発の対象について

- | | | |
|-------------|--------------|-----------------|
| 1. 社会全体 | 2. 職場全体（勤労者） | 3. 職場の経営者層・管理職層 |
| 4. 女性 | 5. 男性 | 6. 高齢者 |
| 7. 大学・専門学校生 | 8. 中学生・高校生 | |
| 9. その他（ | | ） |

【問19】 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動を積極的に行っていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（※3つまで選んでください）

1. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
2. 男性が家事・育児などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす
3. 男性が家事・育児などを行うことに対する女性の抵抗感をなくす
4. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進める
5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高める
6. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する
7. 労働時間短縮や休暇制度、在宅就業制度（テレワーク等）などの情報通信技術（ICT）を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
8. 男性が家事・育児などを行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる
9. 男性の家事・育児などについて、啓発や相談窓口の設置、技能の研修を行う
10. その他（)

【問20】 あなたは、男女共同参画社会の実現を図るために、今後行政が特に力をいれていくべきことは何だと思いますか。（※3つまで選んでください）

1. 政策決定の場に女性を積極的に登用する
2. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
3. 従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
4. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める
5. 民間企業等に対し、女性が働きやすいような職場環境を整えるよう促す
6. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
7. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
8. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
9. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
10. 学校や家庭などで、男女共同参画に係る教育を進める
11. 中学・高校生に対して、性別に捉われない進路選択や職業選択ができるよう支援する
12. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
13. その他（)

DV（配偶者等からの暴力）についてお聞きします。

【問21】あなたは、次のようなことが配偶者やパートナー、交際相手の間で行われた場合、(1)それを暴力だと思いますか。また、(2)配偶者やパートナー、交際相手から受けたことがありますか。
ア～ケそれぞれについてお答えください。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

		(1)あなたの考え				(2)受けたことがある		
		どんな場合でも 暴力にあたる ①	どちらかといえば 暴力にあたる ②	どちらかといえば 暴力にあたらぬ ③	暴力にあたらぬ ④	まったく ない ①	1、 2度あつた ②	何 度もあつた ③
ア	平手で打つ、足でける、身体を傷つける可能性のある物でなく							
イ	なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす							
ウ	大声でどなる							
エ	家族や友人との関わりを持たせない							
オ	交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する							
カ	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する							
キ	何を言っても長期間無視し続ける							
ク	家計に必要な生活費を渡さない							
ケ	嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない							

【問22】（問21）の「(2) 受けたことがある」で点線の囲いの中に、1つでも○がついた方にお聞きします。

あなたがそのような行為を受けた時、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1. 公的機関（市役所、配偶者暴力相談支援センターなど）
2. 警察
4. 民間の相談機関（NPO法人など）
6. 家族や親戚
8. その他（
9. 何もしなかった | 3. 弁護士
5. 身近な人（友だち、同僚など）
7. 相手に抗議するなど自分で解決した
) |
|---|---|

【問23】DVに対する対策や行政からの支援として特に重要だと思う取り組みは何だと思いますか。

(※3つまで選んでください)

1. 家庭内であれ暴力は犯罪であるという意識の啓発
2. いざという時に駆け込める緊急避難場所の整備
3. 緊急時の相談体制の充実
4. 住居や就労斡旋、経済的援助など、生活面でのサポートの充実
5. カウンセリングや日常的な相談など、精神面でのサポートの充実
6. 離婚調停への支援など、法的なサポートの充実
7. 加害者に対する厳正な対処
8. カウンセリングなど、加害者の更正に関する対策の充実
9. 小・中学生や高校生に対する「対等な人間関係の大切さ」などの意識啓発
10. その他 ()
11. わからない

【問24】日ごろから人権について感じていること、また、人権が尊重され、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりを実現するために、あなたができると思うことなど、どのようなことでもかまいませんので、下欄に自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

.....

最後に、あなたご自身についてお聞きします。

以下の質問については、これまでご回答いただいた内容に対し、性別については女性の活躍推進に関する分析を、年齢については世代別の意識の違いに関する分析をするための項目です。よろしければ、可能な範囲でお答えください。

あなたの性別は。	()		
あなたの年齢は。(※記入日現在)	1. 18~29歳	2. 30~39歳	3. 40~49歳
	4. 50~59歳	5. 60~69歳	6. 70歳以上

ご協力をいただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒(切手不要)に入れて、2月20日(木)までにポストに投函してください。